

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

18

2014年10月

大阪府教育委員会

はじめに

文化財調査事務所は大阪府教育委員会文化財保護課の分室として平成9年6月に開設いたしました。開発事業に対する行政的な調整業務、埋蔵文化財の調査と保護、出土資料の整理・報告・資料の貸し出しなどの活用業務、活用を前提とした収蔵までを組織的に行う埋蔵文化財センターとしての業務を実施してきました。また、大阪博物館旧蔵の美術工芸品や銭貨、寄贈を受けた民俗資料なども収蔵し、順次整理作業を実施し、成果を公開してきたところです。

平成25年度の末には、文化財活用の基本となる収蔵施設（大阪府教育委員会和泉池上文化財収蔵庫）が大阪府立弥生文化博物館の隣接地に完成いたしました。泉大津収蔵庫に保管していたすべての出土品を収納するとともに、井戸枠などに転用されて出土した船材の主要なものを集めて収蔵展示したところです。活用機能を併せ持つ新たな収蔵施設として、順次出土品の収納を進めていく予定です。

ここ数十年の経済状況の変化により、府内においても発掘調査事業量は減少しています。一方、百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録運動をはじめとして、文化遺産の価値を積極的に評価し、地域の財産として活かそうとする動きは一層強いものとなっております。行政の普及公開活動だけでなく、府民自身が文化財を活かすための多様な活動に積極的に参加して体験し、学習してその成果を享受するという仕組みができています。

調査事務所においては、基本的な文化財調査・整理・報告事業を着実に実施するとともに、大量に保管収蔵している文化財を積極的に公開し、多様な形で活用に資することができるよう努力していく所存です。今後とも、関係者はじめ府民の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 荒井大作

例 言

1. 本書は大阪府教育委員会事務局文化財調査事務所年報第18冊である。
2. 本書には本府教育委員会が実施した平成25年度の発掘調査報告及び公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表3の調査番号に一致する。
遺跡名（平成25年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担

・「平成25年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査管理グループ
・「主要発掘調査の概要報告」	文化財企画グループ 調査第一グループ 調査第二グループ
・「資料紹介」	調査管理グループ
・「事業報告」	調査管理グループ
・「平成25年度検討会および資料」	調査管理グループ
・「平成25年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
・「平成25年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
・「平成25年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は500部作成し、一部当たりの単価は306円である。

目 次

はじめに	
例 言	
平成 25 年度における埋蔵文化財調査の概況	1
【主要発掘調査の概要報告】	
大泉遺跡・東高野街道	(13001) 6
久宝寺遺跡	(13002・13003・13036) 7
和泉寺跡・府中遺跡	(12072・13005) 9
瓜破北遺跡	(13007) 10
安威城跡	(13010) 11
芹生谷遺跡	(13014) 12
寺田遺跡	(13018) 13
新金岡 4 丁遺跡	(13022) 14
桜塚古墳群	(13027) 15
鳩原遺跡	(13028) 16
井尻遺跡	(13029) 17
梶原西遺跡	(13030) 18
東奈良遺跡	(13033) 19
吉井遺跡	(13034) 20
加治・神前・畠中遺跡	(13039) 22
上垣内遺跡等	(13040) 23
狭山藩陣屋跡	(13050) 24
喜志遺跡	(13060) 25
【資料紹介】	
古市古墳群における馬形埴輪の新資料～はざま山遺跡 1984 年の調査から～	26
【事業報告】	
和泉池上文化財取蔵庫の建設	28
文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業	30
平成 25 年度検討会および資料	34
平成 25 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	34
平成 25 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	
実物資料・複製資料長期貸出	35
実物資料・複製資料短期貸出	37
資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	38
資料閲覧	41
平成 25 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	45
文化財調査事務所平面図	46

挿図目次

図1 主要調査位置図	5	図42 中世水田の確認状況	19
図2 大泉遺跡調査位置図	6	図43 古墳時代後期遺構の検出状況	19
図3 B区ふいご羽口出土状況	6	図44 吉井遺跡と周辺の遺跡	20
図4 C区鍛冶がと溝	6	図45 調査区位置図	20
図5 久宝寺遺跡調査区配置図 (1/5000)	7	図46 2区平面図	21
図6 B調査区出土弥生土器出土状況 (西から)		図47 3区平面図	21
弥生時代中期中頃	8	図48 断面模式図 (1区)	21
図7 C調査区 溝 奈良時代 (北東から)	8	図49 1区	21
図8 D調査区 溝 奈良時代 (北から)	8	図50 2区	21
図9 E調査区 大溝と堤 古墳時代前期 (西から)	8	図51 3区	21
図10 和泉寺跡・府中遺跡調査位置図	9	図52 4区	21
図11 E区中世掘立柱建物跡	9	図53 5区	21
図12 F・G区弥生時代後期から庄内期の土器溜り	9	図54 加治・神前・畠中遺跡調査位置図	22
図13 瓜破北遺跡第5面全景	10	図55 建物跡3・4・5、井戸検出状況 (東から)	22
図14 第5面平面図	10	図56 遺構平面図	22
図15 安威城跡調査区遺構平面図	11	図57 上垣内遺跡等調査位置図	23
図16 芥生谷遺跡調査区位置図	12	図58 トレンチ配置図	23
図17 溝2-2	12	図59 調査状況 (No.4トレンチ)	23
図18 中国製白磁碗	12	図60 狭山藩陣屋跡全景	24
図19 寺田遺跡 位置図	13	図61 大手筋の瓦礫	24
図20 調査区 位置図	13	図62 喜志遺跡調査位置図	25
図21 手あぶり形土器出土状況 (東から)	13	図63 調査区全景 (北から)	25
図22 壺・小型丸底壺 出土状況 (東から)	13	図64 調査区全景 (南から)	25
図23 新金岡4丁遺跡調査位置図	14	図65 土層断面 (東から)	25
図24 トレンチ配置図	14	図66 はぎみ山遺跡調査位置図	26
図25 新金岡4丁遺跡範囲	14	図67 美陵ポンプ場内及びその周辺	26
図26 桜塚古墳群調査区位置図	15	図68 馬形埴輪 (左:外面, 右:内面)	27
図27 1区谷検出状況	15	図69 馬形埴輪実測図	27
図28 谷5層灰輪碗出土状況	15	図70 和泉池上文化財収蔵庫外観	29
図29 船原遺跡 位置図	16	図71 2階埋葬物収納状況	29
図30 調査区配置図	16	図72 船原遺跡現地公開状況 (1)	30
図31 1区建物跡等 検出状況 (北東から)	16	図73 船原遺跡現地公開状況 (2)	30
図32 2区堅穴住居等検出状況 (東から)	16	図74 加治・神前・畠中遺跡現地公開状況	30
図33 井尻遺跡の範囲	17	図75 中学生体験学習 (1)	30
図34 試掘トレンチ位置図	17	図76 中学生体験学習 (2)	30
図35 トレンチ11遺構検出状況 (西から)	17	図77 中学生体験学習 (3)	30
図36 トレンチ11出土遺物	17	図78 中学生体験学習 (4)	30
図37 船原西遺跡の範囲	18	図79 大泉遺跡展示 (柏原市立歴史資料館)	31
図38 試掘調査区位置図	18	図80 茅渚の海の生業 (高石市郷土資料室)	31
図39 12区検出堅穴建物 (南から)	18	図81 茅渚の海の生業 (堺市立泉北すえむら資料館)	31
図40 東奈良遺跡調査位置図	19	図82 雁屋遺跡展示 (大阪府立弥生文化博物館)	31
図41 中近世水田の確認状況	19	図83 文化財調査事務所平面図	46

挿図目次

表1 原因別調査面積・件数一覧	1	表6 実物資料・複製資料長期貸出	35
表2 地域別調査面積・件数一覧	1	表7 実物資料・複製資料短期貸出	37
表3 平成25年度調査箇所一覧	3	表8 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	38
表4 収蔵庫別遺物量変遷	28	表9 資料閲覧	41
表5 平成25年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧	32		

平成25年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数及び面積

平成25年度の調査件数は発掘調査18件、試掘調査8件、確認調査13件、立会調査23件、分布調査2件で合計64件、調査総面積は14633㎡であった。平成24年度と比較して件数は21件減少したものの、調査面積は約4千㎡増加し、最近5年間の平均的数値となっている。発掘調査面積は大規模な調査4件で10808㎡となり全調査面積の8割を占める一方、小規模な発掘調査を含めた調査件数総数は平成18年以来大きな変化はない。

原因別調査面積・件数一覧表をみると、道路が面積で約半分（件数で3分の1）を占め、ついで警察庁舎（「その他」に分類）、圃場整備、学校、住宅の順に調査面積が多い。

地域別にみると、大規模な道路調査を実施した南河内が多く、豊中警察庁舎建替に伴う調査を実施した豊能地域がこれに次ぐ。三島地域での調査件数が多いのは前年同様第二名神道関連の試掘・確認・立会調査によるものである。

これらの指標は平成19年、20年度に調査面積が大きく減少したものの件数は減少しない状態で推移してきていることを示している。

主な発掘調査成果

以下、時代ごとに主要な発掘調査成果を紹介する。

【縄文時代】

河内長野市河原遺跡では中期末頃（北白川C式）の住居跡2棟・土坑など検出され、出土した石器類（石棒や石斧・石鎌・石匙・石錘など）や豊富な土器は同時期の府内屈指の良好な資料であり、紀伊と南河内を結ぶ山間要路における遺跡立地の好事例である。

柏原市大泉遺跡出土の晩期の資料も前年度出土の中後期の資料と共に、生駒西麓における縄文集落の継続的な存在を示す資料として重要である。

【弥生時代】

八尾市久宝寺遺跡は狭長な調査区であったが、出土した中期ごろの壺はほぼ完形で体部下半に穿孔・口縁部打ち欠きがあることから墓の供献土器の可能性が考えられ、墓城の存在を予想させる。

大泉遺跡では後期の堅穴住居跡を検出した。

和泉市和泉寺跡・府中遺跡では自然河川の肩付近に後期から古墳時代前期の遺物がまとまって出土している。平成22年度調査で検出した同様の遺構の続きにあたり、大量の甕・壺・淡路型と呼ばれる器台や製塩土器などが出土し、当時の地域間交流の様相が明らかとなった。

和泉市寺田遺跡では古墳時代前期の遺構面が確認され、土坑や流路から遺物が出土している。

表1 原因別調査面積・件数一覧

*面積は㎡である

原因	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
住宅	13,817	17	15,453	7	14,730	15	11,189	10	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12	124	9	727	10
農林	10,308	6	9,068	9	1,970	4	1,564	5	672	3	567	4	1,754	4	1,254	3	1,741	3	1,995	4
道路	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20	6,404	25	6,988	22
水路	13,150	7	8,174	9	2,181	5	1,803	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,850	9	16	1	8	1
河川	5,204	5	9,063	2	3,883	2	204	2	10	2	0	1	36	4	0	1	48	1	0	0
学校	144	3	809	7	24	8	12	1	140	1	361	5	0	1	318	2	78	3	780	4
その他	246	10	2,793	12	1,289	12	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30	888	33	2,120	43	4,155	23
合計	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,798	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64

表2 地域別調査面積・件数一覧

*面積は㎡である

地域	16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
大阪府	238	6	245	2	120	4	0	0	96	2	30	2	85	4	3,209	10	96	3	414	5
豊前	4,782	11	1,417	13	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6	449	6	81	6	805	4
畿北	7,861	16	7,357	13	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9	1,532	7	1,166	6	1,139	5
瀬河内	8,388	12	16,433	15	4,842	10	6,534	9	9,860	11	7,945	10	2,620	12	1,891	9	3,985	14	7,367	11
中河内	887	9	50	11	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28	2,224	13	1,091	21	686	18
北河内	18,064	9	20,923	15	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21	2,086	12	1,391	9	116	5
三島	14,080	8	11,287	8	8,677	12	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11	2,336	20	2,673	22	712	15
豊能	12	1	360	2	50	1	204	4	0	0	187	6	70	5	2,045	3	46	2	3,334	1
合計	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,798	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64

【古墳時代】

豊中市桜塚古墳群中心部にあたる警察庁倉予定地の発掘調査では古墳は検出されなかったが、古墳時代に存在した谷の埋土から埴輪などが出土した。

柏原市大泉遺跡では、後期の鉄鍛冶関連遺構が検出され鉄滓や鑄羽口などの遺物が多量に出土したことが特筆される。日本最古の製鉄炉が検出されている大泉遺跡での鉄・鉄製品生産の一端を示している。

茨木市安城城跡においては中期の小型住居跡が検出された。また、河南町芦生谷遺跡では後期の竪穴住居跡が4棟検出されている。

岸和田市吉井遺跡では須恵器蛸壺などが出土している。

【古代】

貝塚高校用地内の加治・神前・畠中遺跡の発掘調査では奈良時代の掘立柱建物5棟のほか井戸などが検出された。井戸からは「新」と墨書された須恵器も出土した。建物の方位と配置が現地表の斜行の条里地割と異なり正南北方位であることも注目される。

【中世】

鳩原遺跡では川上神社に隣接した斜面上部の調査区で寺院跡と思われる建物跡が検出され、大量の瓦や遺物が出土した。平安時代後期から鎌倉時代前半に存続したと考えられている。

芦生谷遺跡では、遊離した状態で12世紀末ごろの白磁碗が完形で出土している。墓の副葬品かと考えられる。

東条良遺跡でも中世の条里水田跡が検出された。

【近世】

歩道設置工事に伴う狭山藩陣屋跡の発掘調査では、大手筋の道路敷きと瓦積みの側溝、家老屋敷跡・藩主御殿の一部と思われる屋敷地を検出した。江戸時代末ごろの陣屋の様子を描いた明治初期の絵図と対照研究が可能な調査成果である。

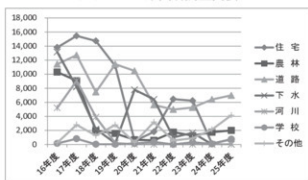
試掘・確認調査の成果

第二名神関連の試掘調査で発見された高槻市井尻遺跡は、その後発掘調査が実施され中世の溝や土坑が検出され大量の遺物が出土している。同じく第二名神関連の試掘調査で尻原西遺跡が発見された。弥生時代中期の竪穴建物や古墳時代の遺物包含層が検出され、淀川右岸の沖積地内の微高地における遺跡立地が検証されつつある。

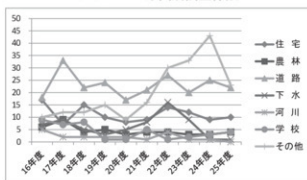
府営新金岡4丁住宅建替に伴う試掘調査では遺物包含層が確認された部分を新金岡4丁遺跡として周知した。

寝屋川市上垣内遺跡では道路建設に伴う試掘調査により周知遺跡の範囲が西方に拡大することが確認された。(阪田育功)

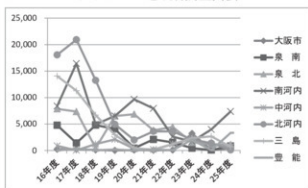
グラフ1 原因別調査面積



グラフ2 原因別調査件数



グラフ3 地域別調査面積



グラフ4 地域別調査件数

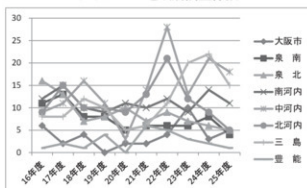


表3 平成25年度調査箇所一覧(1)

*太字は本欄に概要報告が記載されているもの

調査番号	道跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当	事業者	事業名
13001	大宮道路 東大野街道	柏原市平野2丁目	発掘	平成25年4月1日	平成25年9月30日	270	杉本 彰雄	交通道路管 道建設課	一般国道(旧)170号歩道設置工事
13002	久宝寺道跡	八尾市西久宝寺	発掘	平成25年2月1日	平成25年7月3日	40	宮崎 賢一	公園課	久宝寺跡地北地区遊水地周辺整備工 事その2
13003	久宝寺道跡	東大阪市大津南	発掘	平成24年11月1日	平成25年7月3日	150	宮崎 賢一	公園課	久宝寺跡地北地区遊水地周辺整備工 事その2
13004	二本松古墳群 隣接地	大阪府住吉区万代東	立会	平成25年4月4日	平成25年4月4日	-	小林 一博	大阪府立病院機構	府立急性期・総合医療センター新機 等建設工事
13005	和泉寺跡 府中道跡	和泉市府中町4丁目	発掘	平成25年2月1日	平成25年4月23日	733	竹原 比佐	交通道路室 道跡整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線道 路改良工事
13006	高井田横穴	柏原市高井田	確認	平成25年5月16日	平成25年5月21日	32	山田 龍一	こども室 家庭支援課	修道学院舎建設
13007	瓜破北道跡	大阪市平野区瓜破東1丁目	発掘	平成25年4月15日	平成25年5月31日	50	大森 大	住宅経営室 住宅整備課	瓜破東1丁目住宅防火水槽
13008	柳屋古墳群 若手杜古墳群	高槻市貴之庄・下・安楽町	分布	平成25年4月23日	平成25年4月23日	-	岡本 一	交通道路室 道路整備課	高槻市道路建設工事
13009	千徳寺南道跡 稲塚	茨木市千徳寺・大岩	分布	平成25年5月1日	平成25年5月1日	-	岡本 一	交通道路室 道路整備課	都市計画道路入野線建設工事
13010	安威城跡	茨木市安威2丁目	発掘	平成25年5月7日	平成25年6月30日	271	岡田 一	交通道路室 道路整備課	府道茨木島尾間道建設事業
13011	福原道跡	河内長野市福原	確認	平成25年5月7日	平成25年6月17日	260	小林 一博	農政室 整備課	府道農村振興総合整備事業『河内長 野和泉地区』
13012	吹田操車場道跡	吹田市芝田町	立会	平成25年5月23日	平成25年5月23日	-	岡本 一	鉄道運輸施設課 施設事業	吹田信号場基盤整備に伴うホーム 新設工事
13013	松尾山古墳群 芝山古墳群	柏原市関分南郷	立会	平成25年5月30日	平成25年5月30日	-	宮野 一	住宅経営室 施設保全課	府立柏原塚山住宅エレベーター棟設 置に先立つ遺構発掘
13014	丹生谷道跡	河内町丹生谷	発掘	平成25年7月1日	平成26年2月19日	5084	西川 一	交通道路室 道路整備課	一般国道309号河内赤阪バイパス道 路整備事業
13015	尺度道跡	羽曳野市尺度	確認	平成25年6月10日	平成25年6月7日	64	小林 正幸	動物愛護畜産課	動物愛護管理センター(仮)整備事 業
13016	細井寺道跡	茨木市西河原1丁目	立会	平成25年6月28日	平成25年6月28日	-	岡本 一	関西日本近畿建設 本部	阪南道線橋津津田・茨木間新架設 工事
13017	大宮道路 東大野街道	柏原市平野	立会	平成25年6月10日	平成25年6月10日	-	杉本 彰雄	交通道路室 道路整備課	一般国道(旧)170号歩道設置工事
13018	寺田道跡	和泉市寺田町	発掘	平成25年7月1日	平成25年9月18日	301	林 一	住宅経営室 住宅整備課	和泉寺田住宅建設事業
13019	若江北道跡	東大阪市若江西新町3丁目 地内	確認	平成25年6月27日	平成25年6月27日	2	山田 龍一	大阪江城水産企業 団	系統連絡管(仮)工事
13020	河池道跡	貝塚市福本	確認	平成25年7月5日	平成25年7月5日	10	竹原 比佐	住宅経営室 住宅整備課	貝塚橋本第2住宅建設事業
13021	道跡外	羽曳野市南古市	試掘	平成25年7月8日	平成25年7月12日	34	西口 立本	住宅経営室 住宅整備課	羽曳野古市住宅建設事業
13022	新金岡4丁道跡	堺市北区新金岡町	試掘	平成25年7月16日	平成25年6月23日	100	竹原 比佐	住宅経営室 住宅整備課	堺新金岡4丁住宅建設事業
13023	東京島道跡	茨木市東京島1丁目	確認	平成25年7月9日	平成25年7月11日	16	杉田 一	住宅経営室 施設保全課	中層エレベーター設置事業
13024	吹田操車場道跡	吹田市片山町1丁目	立会	平成25年7月16日	平成25年8月6日	-	岡本 一	JR都市 機構西 日本支社	吹田操車場地区整備事業に伴う 道路撤去工事
13025	ツグノ道跡	高槻市水室町3丁目	立会	平成25年7月31日	平成25年7月31日	-	宮野 一	教育委員会 施設財課	阿武野高校下木道改良切替工事
13026	高槻城跡	高槻市城内町2丁目	立会	平成25年8月6日	平成25年9月4日	-	宮野 一	教育委員会 施設財課	櫓の本高校施設改善改修工事
13027	塚塚古墳群	豊中市南塚塚3丁目	発掘	平成25年11月1日	平成26年9月30日	3334	岡田 一	府営本部 施設課	豊中警察署跡地整備事業
13028	福原道跡	河内長野市福原	発掘	平成25年9月2日	平成25年12月9日	1655	林 一	農政室 整備課	府営農村振興総合整備事業『河内長 野和泉地区』
13029	井原道跡 (新規発見)	高槻市井原1・2丁目。道 幅約6丁目	試掘	平成25年4月1日	平成25年6月20日	126	岡本 一	交通道路室 道路整備課	一般国道170号(十三高槻線)道 路整備事業
13030	柳屋古墳群 (新規発見)	高槻市貴屋1・5・6丁目。 萩之庄2丁目	試掘	平成25年4月1日	平成25年7月19日	80	岡本 一	交通道路室 道路整備課	高槻市道跡(柳屋工区)建設並び西 宮長尾線IP改良事業
13031	道跡外	茨木市大岩地内	試掘	平成25年7月1日	平成25年8月26日	128	岡本 一	交通道路室 道路整備課	主要地方道茨木西津原(大岩線)道 路整備工事
13032	大塚城1約跡	大阪府中央区安土町1丁目 26番	確認	平成25年9月13日	平成25年9月13日	17.5	松岡 一	府営本部 施設課	大阪府東警察署平野町交番新築工 事
13033	東京島道跡	茨木市東京島1・2丁目	発掘	平成25年10月1日	平成25年12月27日	91	山田 龍一	住宅経営室 施設保全課	茨木市東京島住宅エレベーター設 置事業

表3 平成25年度調査箇所一覧(2)

調査番号	道路名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業者	事業名
13034	吉井道路	岸和田市吉井1丁目	養老	平成25年10月28日	平成25年11月13日	125	西口比佐	住宅経営者施設保全課	岸和田吉井住宅エレベーター設置事業
13035	堀原西道路	河内長野市堀原	確認	平成25年10月28日	平成25年11月6日	80	小林	農政整備課	河内農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
13036	久宝寺道路	八尾市西久宝寺東大阪市内大通南	養老	平成25年10月1日	平成26年2月28日	180	宮崎	公園課	久宝寺緑地北地区遊水地周辺整備工事
13037	遊路外	八尾市道4-33	試験	平成25年10月8日	平成25年10月8日	8	大塚	大阪広域水道企業団	八尾ポンプ揚排水地創設補強工事その3
13038	太井道路	堺市美原区太井	確認	平成25年10月10日	平成25年10月10日	5	岡本	大阪広域水道企業団	大阪府淀川中洲調整事業「ハイパス遊水管施設事業」
13039	加治・神前・森中道路	貝塚市森中1丁目	養老	平成25年11月1日	平成25年3月14日	726	竹原	教育委員会施設課	大阪府立貝塚高等学校校舎改築工事
13040	上堀内道路等	豊後市赤明和津小	試探確認	平成25年11月11日	平成25年12月27日	90	阿部 岩瀬	交通道路室道路課	都市計画道路ゆづり丘南線
13041	豊島郡美芝岡地区	吹田市西三田町	立会	平成25年10月11日	平成25年10月11日	-	宮野	茨木土木事務所	国道479号電線共同溝工事
13042	遊路外	柳町幸子地内	試験	平成25年10月17日	平成25年10月17日	2	岡本	近畿地方整備局道路課	一般国道26号和歌山峠道路建設工事
13043	坊間道路	交野市星出北2丁目	養老	平成25年10月22日	平成25年10月22日	6	岡田	下水道事業課	枚方交野幹線(第17工区)下水管渠工事
13044	百濟寺道路	枚方市宮之阪3丁目16-21	確認	平成25年11月11日	平成25年11月11日	4.5	松岡	大阪府立病院機構	大阪府立病院センター西編整備事業
13045	若江北道路	東大阪市若江西新町3丁目堀内	確認	平成25年11月19日	平成25年11月22日	4	松岡	大阪広域水道企業団	淀川東部遊水管施設工事(上小阪遊水管管渠大阪第1工区)
13046	成法寺道路	八尾市南本町	立会	平成25年11月18日	平成25年11月21日	-	宮野	交通道路室道路課	大阪港八尾幹線電線共同溝整備事業に伴う遊水管工事
13047	上小阪道路	東大阪市上新小阪	立会	平成25年12月12日	平成25年12月12日	-	宮野	大阪広域水道企業団	遊・排水管路地上管埋込工事
13048	遊路外	堺市新金岡町	立会	平成25年12月18日	平成25年1月9日	-	西口	住宅経営者施設保全課	金岡東部住宅エレベーター設置事業
13049	長尾風呂ヶ谷道路	枚方市長尾元町2丁目23-18	立会	平成25年12月19日	平成25年12月19日	-	松岡	府警本部施設課	交野警察署官庁交番新築工事
13050	狭山陽陸道路	大阪狭山市東池尻	養老	平成26年1月9日	平成26年2月12日	150	小林	交通道路室道路課	府道河内長野東線歩道設置工事
13051	三日市道路	河内長野市石弘	立会	平成26年1月9日	平成26年1月9日	-	橋本	交通道路室道路課	一般国道37号外歩道建設工事
13052	別井道路	箕田林市別井	立会	平成26年1月10日	平成26年1月10日	-	小林	交通道路室道路課	府道土河内箕田林線歩道建設工事
13054	東高野街道大新道路	松原市平野1丁目	立会	平成26年1月15日	平成26年1月15日	-	橋本	交通道路室道路課	一般国道(旧)170号歩道建設工事
13055	三宅西道路	松原市三宅西7丁目	立会	平成26年1月16日	平成26年1月16日	-	橋本	河川室河川整備課	今井川ボックスバード敷設工事
13056	東部道路	八尾市東本町1丁目	立会	平成26年1月21日	平成26年1月21日	-	宮野	交通道路室道路課	大阪港八尾幹線電線共同溝工事
13057	長原道路	大阪府平野区長吉川田3丁目	養老	平成26年1月9日	平成26年6月30日	346	山田松原	大阪広域水道企業団	ハイパス遊水管整備事業長吉川田遊水工事
13058	吹田換車庫道路	吹田市芝田町	立会	平成26年2月13日	平成26年2月21日	-	岡本	鉄道・運輸機構国鉄清井事業	吹田換車庫地盤整備に伴う水路構造物撤去
13059	若山道路	松原市上田6丁目	立会	平成26年2月3日	平成26年2月6日	-	大塚	大阪広域水道企業団	松原ポンプ揚排水立坑築地
13060	善志寺道路	富田林市善志	養老	平成26年2月3日	平成26年2月5日	40	奥	交通道路室道路課	国道170号緑歩道設置工事
13061	百濟寺道路	枚方市宮之阪3丁目	確認	平成26年2月13日	平成26年2月14日	14	大塚	交通道路室道路課	府道枚方木線道路整備事業
13062	弓削道路	八尾市弓削南	立会	平成26年2月10日	平成26年2月10日	-	宮野	大阪広域水道企業団	おしん給水機改修工事
13063	農林センター敷地	河内長野市森之内	立会	平成26年2月18日	平成26年2月18日	-	辻本	動物愛護畜産課	動物愛護管理センター(仮)整備事業
13064	大漢蔵庫敷地	大阪府北区西大漢1丁目	立会	平成26年2月19日	平成26年2月19日	-	岡本	府警本部施設課	大阪府大漢警察署解体工事
13065	植松南道路	八尾市南植松町	立会	平成26年2月24日	平成26年2月24日	-	宮野	大阪広域水道企業団	配水管施設工事八尾中央線分岐・八尾市10-2工区
13066	桧野本町道路	枚方市桧野本町2丁目	立会	平成26年3月7日	平成26年3月7日	-	大塚	交通道路室道路課	府道枚方藤原調整池整備事業



図1 主要調査位置図

おおがた ひしがこう や
大泉遺跡 東高野街道 (13001)

- (1) 柏原市平野二丁目
- (2) 一般国道(旧)170号歩道設置工事
- (3) 杉本清美・岩瀬透・阿部幸一

はじめに

大泉遺跡は、柏原市大泉から平野にかけて広がる縄文時代前期から近世まで継続する複合遺跡である。遺跡の中を南北に東高野街道が伸びている。調査は一般国道(旧)170号交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査で、歩道設置に伴う道路拡幅部分を対象に調査を実施した。平成24年度の調査では、縄文時代中期から後期の土器、弥生時代後期の竪穴住居や遺物、古墳時代から奈良時代頃の鍛冶関連遺構や遺物などが見つかった。今回の調査地は、一般国道(旧)170号の東側で、生駒山地裾野の丘陵部先端に位置する。大泉遺跡範囲では北端部にあたり、調査面積は約270㎡を測る。

調査成果

調査区は北からA区、B区、C区とした。旧耕土層を除去すると調査区全区を南北方向に直線的に貫く溝を検出した。検出長は約50m、幅は約1mを測る。現道の一般国道(旧)170号は、古くから幹線道路の東高野街道として発展しており、今回検出した溝は東高野街道の側溝に相当すると考えられる。溝の近くから北宋銭が出土している。

A区では、弥生時代後期の竪穴住居を確認した。調査区が狭く一部分の検出であったが、住居内から高坏や甕、壺などが出土した。さらに下層で縄文時代晩期に相当する溝を検出した。

B区では、東高野街道の側溝の下面から、鍛冶関連遺構を検出した。1辺約2.5~3.0mの方形の区画内から多くの鉄滓やフィゴ羽口片、須恵器片などが出土し、馬の顎や歯、骨なども多く出土した。土坑内には床面の一部が赤く焼く固まる部分が見られ、埋土に非常に細かい粒状の滓などが混じることから、鉄製品の生産を行っていたことがうかがえる。概ね6世紀中期から後期頃に相当する。

C区では、古代の遺構から金刻する青銅製鈎帯が出土した。東高野街道の側溝の下面からは、一辺が約3mの方形の鍛冶関連遺構と北側に延びる溝を検出した。方形のプラン内では、細い溝と小石散列が概ねコの字状を成す。箱形の鍛冶炉であったと考えられる。北側に延びる溝内からは、おびただしい鍛冶滓と数多くの馬歯や炭化物などが出土した。炉内から溝に鍛冶滓を排出したものとみられる。いずれも、6世紀後半頃に相当する。

まとめ

調査の結果、縄文時代晩期から中世に至る遺構・遺物を確認した。中でも、鍛冶関連遺構を検出したことから、大泉遺跡範囲内において鍛冶作業範囲がこれまで考えられていた範囲よりさらに北側に広がることが明らかになった。



図2 大泉遺跡調査地位置図



図3 B区ふいご羽口出土状況

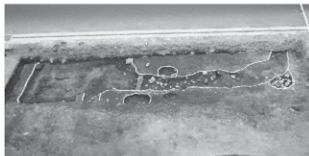


図4 C区鍛冶炉と溝

久宝寺遺跡 (13002・13003・13036)

- (1) 八尾市西久宝寺、東大阪市大蓮南三丁目
- (2) 久宝寺緑地北部地区雨水排水管布設工事
- (3) 宮崎泰史・阿部幸一

はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺一丁目を中心に広がる縄文時代晩期から近世にかけての大規模な複合遺跡である。調査は久宝寺緑地北部地区雨水排水管布設工事に伴って、2011年度から実施している。工事に合わせて調査地点をA～E調査区と呼称している(図5)。A調査区は2011～2012年度、B調査区は2012～2013年度、C調査区は2012～2013年度、D・E調査区は2013年度に調査を実施している。A調査区及びB調査区の調査成果の一部については、前年度で紹介している。

調査の概要

(B調査区)

幅1.25m、長さ約95mの南北方向の調査区で、調査番号は13003(12038)である。第0層から第12層の層序を確認している。第0層は整地土、第1層は旧耕作土、第2層は近世、第3層は中世～近世、第4層は古代～中世、第5層は古墳時代前期～後期、第6層は古墳時代前期、第7層は弥生時代後期～古墳時代初頭、第8層～第12層は弥生時代中期～後期に相当する。第1～6層の調査については

昨年度に終了し、今年度は第8層以下の調査を実施した。調査では11面の遺構面を確認した。第11層下面で検出した「高まり」中から、弥生時代中期中頃の壺が横位の状態で出土した(図6)。壺は口縁部を打ち欠き、体部下半に穿孔を施していることから、方形周溝墓の供献土器の可能性も考えられた。

(C調査区)

A調査区の南端に隣接する幅2.4m、長18.5mの南北方向の調査区で、調査番号は13002(12061)である。調査は工事掘削深度の関係で、南側はT.P.+2.708m、北側はT.P.+3.467mまででとどめている。なお、南端の一部分(マンホール設置部分)についてはT.P.+2.0mまで調査を実施している。基本層序は先に調査を実施しているA調査区に準じて実施し、第0層から第18b層の層序を確認している。平面的な調査は第16a層上面まで実施し、南側で第18b層を確認している。調査では11面の遺構面を確認した。第4層上面で溝、土坑(図7)、第10層以下では弥生時代の溝・土坑・流路を検出している。

(D調査区)

B調査区の南東側に位置する。上端の幅約3.1m、

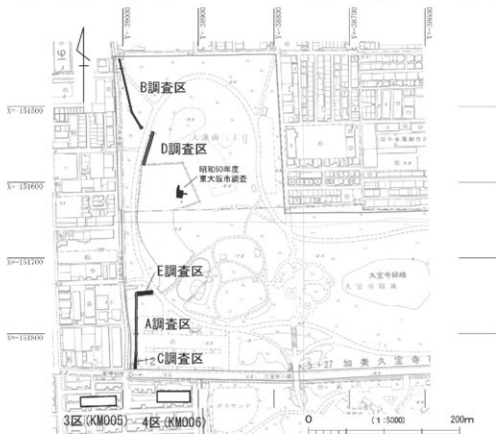


図5 久宝寺遺跡調査区配置図 (1/5000) * 既往の調査区含む



図6 B調査区弥生土器出土状況(西から)
弥生時代中期中頃

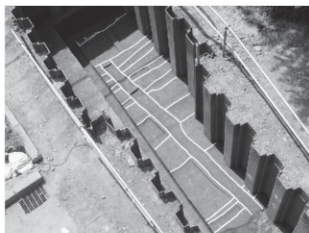


図7 C調査区 溝 奈良時代(北東から)

上端の長さ約50mの南北方向の調査区で、調査番号は13036である。調査は工事掘削深度の関係で、北側はT.P.+4.571m、南側はT.P.+4.68mまで(第5層上面)とどめている。なお、南端の一部分(マンホール設置部分)についてはT.P.+4.0mまで実施している。基本層序は隣接し、先に調査を実施したB調査区に準じて実施している。D調査区では、第0層から第6層の層序を確認している。平面的な調査は第6層上面(南端の一部分)まで実施し、3面の遺構面を確認した。古墳時代前期の第6層上面で畦畔、古代の第4層上面では南北方向の溝4条(図8)、中世～近世の第3層上面では下端幅2mをはかる南北方向の大畦畔を二カ所で検出している。

(E調査区)

A調査区の北端に接する。幅約4.8m、長さ約22mをはかる東西方向の調査区で、調査番号は13036である。調査は工事掘削深度の関係で、西側はT.P.+3.756m、東側はT.P.+3.895mまでとどめている。なお、東端の一部分(マンホール設置部分)についてはT.P.+3.7mまで実施している。調査では7面の遺構面を確認した。第9b層上面で検出した



図8 D調査区 溝 奈良時代(北から)

流路から弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての甕形土器が出土した。第6層上面では古墳時代前期の堤を伴う幅2m以上、深さ1m以上はかる東西方向の大溝を検出した(図9)。

まとめ

今回の調査で奈良時代の生活面、古墳～弥生時代中期の生産域が北側にさらに広がっていることが明らかとなった。また、B調査区で検出した「高まり」から出土した口縁部を打ち欠き、底部に穿孔を施した弥生時代中期の壺の存在は、方形周溝墓への供献土器の可能性が考えられた。東側の池で1985年度に東大阪市の調査で方形周溝墓が検出されており、今回の供献土器の存在は、墓域がさらに北側に伸びている可能性が指摘されよう。



図9 E調査区 大溝と堤 古墳時代前期(西から)

いずみであと ふちゆう
和泉寺跡・府中遺跡 (12072・13005)

- (1) 和泉市府中4丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線道路改良事業
- (3) 竹原伸次・辻本 武

はじめに

和泉市を南北に貫く都市計画道路大阪岸和田南海線の建設に先立ち実施された和泉寺・府中遺跡の発掘調査は平成20年より本格的に始まり、文字瓦を刻んだ古代瓦の発見や弥生時代後期～古墳時代前期の大量の土器溜まり遺構の検出など、大きな成果を取ってきた。今回は道路擁壁および水路付替え工事に伴う調査として、平成20・22年度の発掘調査区の周囲を取り囲む位置に調査区を設定した。

調査成果の概要

近世：江戸時代以降の耕作に関係する溝や井戸を検出した。溝はその溝の方向が現在に残る耕作地の区画の方向と一致することが判明し、この区画が近世にまで遡ることを確認した。

中世：掘立柱建物、土坑、溝等を検出した。これらは前回調査で検出した遺構の続きに当たり、中世の集落が広がることが確認された。集落は調査区外に広がることが予想される。また柱穴と土坑より12世紀頃の瓦器碗等がままとって出土し、これが集落の時期を示すものと思われる。

古代：古代の明確な遺構の検出はなかったが、包含層や後世の遺構よりこの時期の瓦片がままとって出土した。和泉寺跡に関連する瓦であろうと推測される。

弥生～古墳時代：前回調査では自然流路内に弥生時代後期～古墳時代前期の土器溜まりが発見されたが、今回はこの土器溜まりの続きを検出し、この

遺構が西に広がることを確認した。今回検出した土器溜まりは2×4mの範囲であったが、前回のものと合わせると5.5×4mの範囲に実測可能な土器が285点以上出土したことになる。土器溜まりはさらに道路用地の外に広がることが確実である。土器は壺・甕・高坏・器台・製塩土器等の多様な種類があり、なかでも淡路型という淡路島とその周辺地域を中心に出土する特徴ある甕・器台が発見され、府中遺跡周辺の地域と淡路島のとの間に交流があったことが考えられる。

まとめ

今回の調査は前回の調査区を取り囲む位置に、幅1.5～5.0m、総延長約260mという細長い調査範囲となった。その結果、12世紀頃の集落の広がりや弥生時代後期～古墳時代前期の土器溜まりの広がりを確認することができた。これらの遺構はさらに広がるものと予想され、今後周囲で活発になるとと思われる土木工事の際には注意が必要である。



図11 E区中世掘立柱建物跡



図12 F・G区弥生時代後期から庄内期の土器溜り

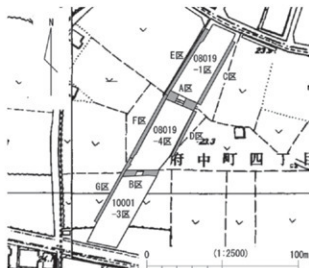


図10 和泉寺跡・府中遺跡 調査地位置図

うりわりきた
瓜破北遺跡 (13007)

- (1) 大阪市平野区瓜破東一丁目
- (2) 府営瓜破東一丁目住宅建替え工事
- (3) 大樂 康宏

はじめに

大阪府大阪市平野区瓜破東一丁目に所在する府営瓜破東住宅（昭和35年建設）は老朽化が進み、平成16年度から府営瓜破東一丁目住宅として建替え工事が計画された。当初は遺跡範囲外であったが、平成17年度に実施された試掘調査、平成19年の一次発掘調査で弥生時代前期～中世の遺構が検出された。これらにより瓜破北遺跡を拡大する形で周知の遺跡範囲内となった。

その後1期分の高層住宅3棟（3号棟・4号棟・5号棟）の建設が完成して入居者の転居完了後、残りのII期分2棟分の二次発掘調査（11011）が平成23年に実施された。この調査から大阪府教育委員会が担当している

調査の概要

第二次調査終了後、住宅2棟の建設工事が着手されたが、諸般の事情で防火水槽設置部分は未調査であり、工事と並行して調査を実施した。

今回調査区は一次調査と二次調査の中間西寄り位置する。調査区は南北9.6m・東西5.2mの長方形で、面積は50m²である。

今回調査区は、瓜破台地の「西谷」と呼ばれる埋没開析谷の西斜面から台地平坦面にかけた位置に当たる部分である。調査範囲が狭小であり、「西谷」の谷部堆積層には調査範囲が及ばなかった。二次調査では古墳時代の沼状の堆積層から6世紀の準構造船の部材がまとまって出土している。

今回は平成19年度調査の調査区西端で検出された竪穴住居跡を含む弥生時代前期末頃から古墳時代の遺構面と同一と思われる遺構面を認めた。

弥生時代以降の土坑・ピット等を20基ほど検出した。出土遺物が少なく確定は出来ないが、弥生時代前期の遺構が大半であると思われる。

最終面の地山層も精査したが、旧石器等の痕跡は認められなかった。

今回調査成果は「瓜破遺跡III-府営瓜破東一丁目住宅建替え工事に伴う発掘調査-」大阪府教育委員会 平成26年3月31日 として刊行済みである。



図13 瓜破北遺跡第5面全景

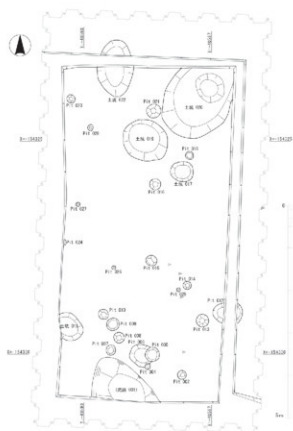


図14 第5面平面図

安威城跡 (13010)

- (1) 茨木市安威二丁目
- (2) 主要地方道茨木亀岡線建設工事
- (3) 岡田 賢・阿部幸一

はじめに

安威城跡は安威川右岸の沖積地から低位段丘上にかけて位置する遺跡である。主要地方道茨木亀岡線の建設工事に先立ち、平成23年度調査区の南側を対象として約270㎡の発掘調査を実施した。

層序と遺構の概要

調査地は、道路建設時の造成土、近代～現代の耕作土、その下位に中世～近代の耕作土が堆積しており、それより下位については調査区の北西端付近には、小礫～大礫からなる礫層からなる基盤層が認められ、その上に古墳時代後期の遺物包含層がわずかに認められた。この礫層は比高差約30cm程度の段差を境に南側が一段低くなり、そこから南に向かって傾斜しており南端部分で確認した礫層は先の段差よりさらに約1m程度低くなっていた。基盤層であるこの礫層は平成24年度の調査により土石流による堆積であると考えられており、またこの段差についても近隣で過去に確認された有馬高槻構造線における真上断層の延長部分にあたる可能性が高いと考えられている。

断層とみられる段差以南は、礫層の傾斜面上に砂層が堆積し、さらにその上位に小礫～大礫を伴う砂質土が堆積していた。この砂質土は水性堆積に見られるようなラミナは見られず、大小礫、砂、シルトが比較的均質な状況で堆積していたので、自然堆積というよりは人為的に攪乱されている可能性がある。またこの砂質土層中からは古墳時代後期に属する須恵器・土師器が出土している。人為的な攪乱の可能性については土壌分析においても強く示唆されており、砂質土層は整地に伴って形成された可能性がある。

またこの砂質土層を除去した砂層中で一辺約3.5m程度の隅丸方形を呈した小型の竪穴住居跡を1棟検出した。住居跡内からは土師器甕、高坪等が出土しており、古墳時代中期に属すると考えられる。なお住居内にはカマドや柱穴は認められなかった。また埋土は先述の砂質土に類似しており、整地に伴い埋め戻されたと考えられる。それ以外の遺構は顕著ではなく、砂質土の落込みから古墳時代後期に属する土器だまり、および土坑が数基検出された程度である。

まとめ

今回の調査区は、断層と考えられる地形の段差以南について、古墳時代中期の竪穴住居跡、およびこれらを埋める整地土層の可能性が高い砂質土層を確認した。断層より以北に位置する平成23・24年度調査区では、礫層上で古墳時代後期の遺構を確認しており、中期に属する遺構、遺物は存在しなかったのとは対照的である。この竪穴住居跡と南に近接する安威遺跡における竪穴住居跡との時期差は今後の検討課題であるが、中期の竪穴住居を覆う砂質土層が古墳時代後期の整地土層と考えられることは、本遺跡周辺における古墳時代中期から後期の集落構造の変遷を知る上で重要な成果になると考えられる。

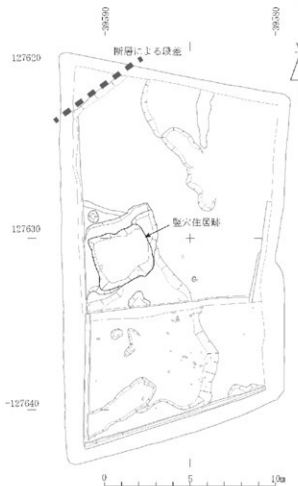


図15 安威城跡調査区遺構平面図

せるたに 芦生谷遺跡 (13014)

- (1) 南河内郡河南町芦生谷
- (2) 国道309号河南赤阪バイパス道路整備事業
- (3) 西川寿勝

はじめに

芦生谷遺跡は葛城山系の西斜面に位置し、古代から南河内と大和を結ぶ交通路にある。周辺は河南台地と呼ばれ、南にゆるやかに傾斜する耕作地が広がり、現在も条里地割の水田区画を良好にとどめる。

今回調査地のすぐ南東には国史跡金山古墳(双円墳・全長85.8m)があり、古墳の営まれた6世紀後半から7世紀初頭には、この地で活躍した有力な豪族がいたようだ。昨年度調査では、金山古墳造営頃の4棟の竪穴住居(竪穴建物)が発見されている。今回調査でも、さらに4棟の竪穴住居が見つかり、その南側からは7世紀初頭頃に埋没した溝が発見された。

調査成果

今回の調査区は南北長さ約400m、東西幅約13mの道路部分5084m²に及ぶ。

調査区南端にあたる1区は金山古墳の北西にある。遺構面の大半は後世の水田耕作などで削平されていた。1区のもっとも高所にあたる地点から、12世紀末頃の中国製白磁碗・土師質土器皿などが発見された。土坑墓があったのかもしれない。

1区の北側に位置する2区も水田耕作で大半が削平され、遺構は良好に残されていない。2区中央から長さ52m以上、比高差2m以上を測る南北溝2-2が発見された。溝は上面を削平されているが、深いところで1.2mを測り、砂や礫でいっきに埋没していた。削平の少ない南側は周囲にあふれた砂の広がりが見られた。溝の底から7世紀初頭頃の須恵器蓋杯などがみつかった。南北溝2-2の南端には新たに真北にのびる南北溝2-1が掘られていた。南北溝2-1の下層からは鎌倉時代から江戸時代までの土器や陶磁器が出土した。溝はその上面がコンクリー



図16 芦生谷遺跡 調査区位置図

ト製の水路となって現在も機能している。水田耕作のための水路は古墳時代後期にはじまり、条里水田に沿って切り替えられ、現在まで同じ場所を使い続けられているようだ。

中国製白磁碗

1区中央から直径15.2cm、高さ5.1cmを測る完形の白磁碗が発見された。碗の底部は削り出しによる高台で、乳白色の釉薬が二重にかけられ、口縁端部が玉縁状にふくらむ特徴的なものである。中国福建省の閩南(びんなん)沿海窩で、12世紀末頃に焼かれたと考えられる。

源平合戦で平氏が滅亡するまでは、京都や博多の商人を通じて中国南海部の茶碗や壺などが関西に数多くもたらされた。今回発見の碗はその最終段階のものであろう。13世紀になると、政権は鎌倉に拠点を移し、独自のルートで中国商人と交易を始める。この交易では中国南海産の白磁はもたらされず、北宋の官窯だった浙江省龍泉窯で焼かれた青磁碗などがもたらされたとされる。

今回発見された碗は高台の積み付けが丁寧に磨きこまれ、漆器の盆などにのせて食器とされていたことがうかがえる。ただし、口縁端部に小さな欠けがみられる。これは墓に副葬する時の儀礼かもしれない。

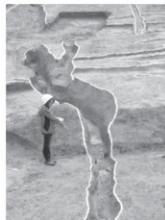


図17 溝2-2



図18 中国製白磁碗

寺田遺跡 (13018)

- (1) 和泉市寺田町
- (2) 府営和泉寺田住宅建替事業
- (3) 林 日佐子

はじめに

寺田遺跡は和泉市の北西部、松尾川右岸の低位段丘上に位置する(図19)。府営和泉寺田住宅の建て替えに先立つ試掘調査で、古墳時代から中世の遺構・遺物が出土したため、住宅敷地内を新たに寺田遺跡とした。その後、3次にわたり発掘調査をおこない、今回は第4次調査として、府営住宅敷地北西部の道路拡張予定地において発掘調査を実施した(図20)。

調査成果

近現代の耕作土下層の黄褐色粘質土層上面(第1面)で、北西-南東方向の溝を検出した。古代から中世の耕作に伴う鋤溝または区画溝とみられる。

この土層下面(第2面)で、第3次調査の流路の延長とみられる034流路を検出した。流路からは、ほぼ完形の手焙形土器が出土した(図21)。また、調査区北部で検出した037土坑内には、古墳時代前期の甕や小型丸底壺などが見られた(図22)。弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構面と考えられる。



図19 寺田遺跡 位置図



図20 調査区 位置図

まとめ

第1・3次調査区では、古墳時代中期を中心とした集落跡を検出した。竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑・溝・流路など多数の遺構、朝鮮半島系土器・鍛冶関連遺物・須恵器・土師器・製塩土器・玉類・砥石・土鍾など大量の遺物が出土した。

また、第2次調査区では、調査区北西部で、弥生時代後期後半から古墳時代前期の集落跡、南東部で、弥生時代中期から後期の集落跡を検出した。

これまでの調査成果により、集落は居住域を移動しながら、弥生時代中期から古墳時代後期まで継続して営まれていたと考えられる。中でも、古墳時代中期に最大規模となり、最盛期を迎えたといえる。

今回の調査区においては、古墳時代中期の遺物が少なく、集落から離れた地点とみられる。一方、弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の土坑や流路、土器類を検出しており、南方に広がるこの時期の集落の周辺部にあたると考えられる。



図21 手焙形土器 出土状況(東から)



図22 甕・小型丸底壺 出土状況(東から)

新金岡4丁遺跡 (13022)

- (1) 堺市北区新金岡4丁
- (2) 府営新金岡4丁住宅建替事業
- (3) 竹原伸次・西口陽一・辻本 武

はじめに

府営新金岡4丁住宅建替事業に伴い、9箇所のトレンチを設定し試掘調査を実施した(7、8トレンチは欠番)。

調査結果

1トレンチ (1m×20m)

地表下約1.1mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

2トレンチ (1m×20m)

地表下約1.4mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

3トレンチ (1m×10m)

地表下1.2mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

4トレンチ (1m×10m)

地表下約0.7mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

5トレンチ (2m×2m)

地表下1mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

6トレンチ (2m×2m)

地表下1mまで、府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

9トレンチ (1m×20m)

西側約15mは、地表下約0.5mまで府営住宅建設時の盛土があり、灰白色砂礫土の地山となる。

東側5mは地形が下がっており、盛土の下に約0.1mの旧耕作土が残存しており、以下黄灰色粘土層が約0.3m確認でき、灰白色砂礫土の地山となる。黄色灰色粘土層からは、中世の遺物が出土し、遺物包含層と確認できた。

10トレンチ (3m×3m)

地表下0.25mまで公園造成時の盛土があり、灰白色粘土の地山となる。

11トレンチ (1m×3m)

9トレンチ東側に発見された中世の包含層の広がりを確認するため、9トレンチ東側に調査区を設定した。地表下約0.5mまで府営住宅建設時の盛土、以下旧耕作土(約0.1m)、黄灰色粘土層(約0.2m)、灰白色砂礫土層(地山)となる。黄灰色粘土層からは、中世の遺物が出土した。

今回の調査では全トレンチから遺構は検出されなかった。また、9、11トレンチ以外からは遺物は出土しなかった。

試掘調査の結果、遺物が発見されたため、事業者に文化財保護法第94条の1に基づく通知を提出してもらうとともに、堺市文化観光局文化部文化財課と協議し、遺跡名を新金岡4丁遺跡、範囲を図25のとおり周知することとなった。



図23 新金岡4丁遺跡 調査地位置図



図24 トレンチ配置図

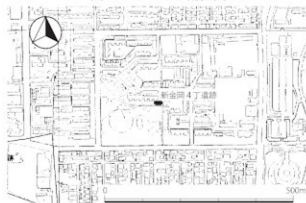


図25 新金岡4丁遺跡範囲

まぐらつか こふんぐん
桜塚古墳群 (13027)

- (1) 豊中市南桜塚3丁目
- (2) 豊中警察署建替事業
- (3) 岡田 賢・阿部幸一

はじめに

桜塚古墳群は、豊中台地のほぼ中央部の標高20～25mの低位段丘上に立地する古墳時代前期後半から後期初頭の古墳群である。東西1.2km、南北1kmの範囲に分布し、小石塚古墳、大石塚古墳を中心とする西群、大塚古墳、御獅子塚古墳、南天平塚古墳を中心とする東群など四群に区別されている。

豊中警察署の建替に伴い、大阪府警察本部長からの依頼に基づき平成25～26年度に本発掘調査を実施することとなった。調査地はちょうど御獅子塚古墳と南天平塚古墳の間に位置している。

調査の概要

調査地は市道をはさんで南北に分かれており、1～4区に分割して実施することとした。全体で約3300㎡である。このうち平成25年度は1区(約1600㎡)の調査を実施した。

1区にはもともと塚状の高まりが3か所存在し(マウンド1～3)、警察庁舎もこれらを避けて建てられていたこともあり、古墳の可能性も考慮に入れて調査を行ったが、マウンド2および3については現代の盛土、マウンド1については近世以降の盛土と考えられた。マウンド1の盛土をすべて除去した際に基盤層を掘り込む近世の溝を数条確認している。マウンド1は黄褐色系の砂層上に基盤層の灰白色系粘土ブロックと黄灰褐色系砂の混合土を盛土としており、近世に周辺の耕地やため池などの整備時に出た土砂を積み上げたことが想定される。なおマウンド中から長軸約2m幅約1mの長方形の土坑を検出している。遺物は出土しておらず時期不詳であるが、底面に石を敷き詰めており墓の可能性もある。



図26 桜塚古墳群調査区位置図

マウンド以外は、造成度直下は近世耕作土であり、その下は大部分が基盤層であったが、調査区東端で北東-南西方向の谷が検出された。最大幅約12m、深さは1.5m以上を測る。堆積土は上半部が近世以降の青灰色粘土層、下半の4層は中世の灰色粘土層、その下の5層は古代の黒褐色粘質シルト、さらに6層は礫混じり黒色系の砂～シルト層である。5層からは黒書のある灰軸碗が出土している。また6層からは円筒埴輪片や形象埴輪片が出土している。古墳築造時にはこの谷は存在し、その後砂礫とともに周辺の古墳から流されてきたものと考えられる。

この谷は調査区北端付近で方向を東に振って浅くなりつつあるため、御獅子塚古墳の周濠のやや東あたりで谷頭になる可能性がある。ちょうど御獅子塚古墳と南天平塚古墳の間に谷のあることが判明し、古墳の築造当初は現在のような平坦な地形ではないことが明らかとなった。



図27 1区谷検出状況



図28 谷5層灰軸碗出土状況

はとほら 鳩原遺跡 (13028)

- (1) 河内長野市鳩原
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 林 日佐子・大江綾子 (河内長野市教育委員会)

はじめに

鳩原遺跡は河内長野市の南東部、金剛山西麓に位置する。確認・試掘調査の結果に基づき、河内長野市教育委員会と共同で発掘調査を実施した(図29)。調査区は1～5区の計5箇所を設定した(図30)。

調査成果

1区は標高約253mの高所に位置する。古代から中世の建物跡・井戸・土坑・落ち込み等を検出した。土器を埋納した土坑、礎石や礎板に用いたと推定される瓦を廃棄した落ち込みもみられた(図31)。

調査区南半部を中心に、黒色土器・土師器・須恵器・大量の瓦類が出土した。北西約1.5kmに位置する観心寺の軒丸瓦や軒平瓦に類似する瓦も含まれていた。建物は平安時代後半から鎌倉時代前半にかけて存続し、室町時代までには廃絶したと考えられる。

2区は石見川方向に延びる丘陵先端部の平坦面に位置する。縄文中期末から後期初頭の2棟の竪穴住居を検出した。調査区の東側住居は、一辺4.0～4.5mの隅丸方形を呈し、柱穴・炉跡・埋甕等がみられた。一方、同規模と推定される西側住居は、西半部に縄文後期後葉の大形土坑が重複していた(図32)。

調査区西半部を中心に、縄文中期中葉から後期後葉の土器、磨製石斧・石錘・石鏃・スクレーパーなどの石器類を含む土層の厚い堆積が認められた。

3区で縄文晩期とみられる石刀が出土した。

まとめ

縄文時代には、石見川側の平坦面で断続的ながら長期に渡り、この一帯で活動していた状況が推定できる。また、古代から中世には、山側で観心寺と関係する瓦葺きの建物等が存在していたとみられる。



図29 鳩原遺跡 位置図



図30 調査区 配置図



図31 1区 建物跡等 検出状況 (北東から)



図32 2区 竪穴住居跡等 検出状況 (東から)

いじり 井尻遺跡 (13029)

- (1) 高槻市井尻町1丁目 他
- (2) 一般国道170号 (十三高槻線) 道路整備事業
- (3) 岡本敏行・(公財) 大阪府文化財センター

はじめに

井尻遺跡は、一般国道170号 (十三高槻線) 道路築造事業に伴う事前の試掘調査で今回新たに発見された遺跡である。

試掘調査は、事業計画地の中央部地域及び北部地域を中心に調査可能な地点に2×5m前後の試掘トレンチを12ヶ所 (中央部地域にトレンチ1~9、北部地域にトレンチ10~12の計12ヶ所) 設定 (図34)。土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械および人力を用いて掘り下げた。

調査成果

調査対象地は、高槻市井尻1丁目・2丁目から道鶴町6丁目にまたがり、北西には山地が迫り、南東

には淀川が流れ、地形的にはほとんど高低差は認められない。縦横に水路が走り、山地から流下する小河川の氾濫原や淀川本流の後背湿地で構成された平野部に位置する。北東には奈良時代の駅家と考えられる梶原南遺跡、東には瓦器柄の編年基準で有名な上牧遺跡が隣接する。

調査の結果、中央部地域に設定したトレンチ1~9は、いずれも近世以降に水田等が造成されていることが判明し、それ以前については淀川の氾濫原で、湿地状況を呈していたと考えられる。中世以前に遡る遺構・遺物は確認されなかった。

それに対して、北部地域は自然堤防状の微高地を呈し、トレンチ10~12からは中世の溝や土坑等の遺構が検出され (図35)、それに伴って大量の遺物が出土した (図36)。当該微高地を中心に中世集落の存在が想定されるとともに、ほぼ同時期の集落である上牧遺跡との関連が注視される。

まとめ

上記の結果を受けて、高槻市教育委員会と協議を行った結果、トレンチ10~12周辺及び地形等を考慮して図33に示した範囲を新たに井尻遺跡として周知するに至った。

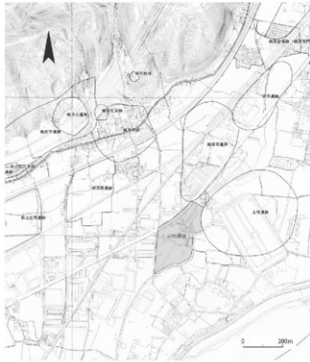


図33 井尻遺跡の範囲



図34 試掘トレンチ位置図



図35 トレンチ11遺構検出状況 (西から)



図36 トレンチ11出土遺物

かじわらし 梶原西遺跡 (13030)

- (1) 高槻市梶原5丁目・6丁目 他
- (2) 主要地方道伏見柳谷高槻線 (高槻東道路 梶原工区)・主要地方道西京高槻線BP道路改良事業
- (3) 岡本敏行・(公財) 大阪府文化財センター

はじめに

梶原西遺跡は、主要地方道伏見柳谷高槻線 (高槻東道路 梶原工区)・主要地方道西京高槻線BP道路改良事業に伴う事前の試掘調査で今回新たに発見された遺跡である。



図37 梶原西遺跡の範囲



図38 試掘調査区位置図

試掘調査は、事業計画地内に2×2mの試掘トレンチを20ヶ所に設定 (国道171号と阪急京都線の間に1区～8区・21区の9ヶ所、阪急京都線とJR東海道線の間に11区～15区の5ヶ所、JR東海道線と西国街道の間に9・10・17～20区の6ヶ所、16区は欠番 - 図38)。土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械および人力を用いて掘り下げた。

調査成果

調査対象地は、北には北摂山地が迫り、南には淀川、西に楡尾川が流れ、その間に挟まれた狭小な沖積平野部に位置する。周辺には7世紀代に建立されたとされる古代寺院の梶原寺跡が北東に、北側山裾には梶原古墳群や安満山古墳群、西側には萩之庄南遺跡、南東側には今回同様に新たに発見された井尻遺跡など、数多くの遺跡が存在する。

調査の結果、阪急京都線より南の1～5区及びJR東海道線より以北の9・10・17～20区については湿地状況を呈し、中世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。これに対して中央部分 (JR東海道線から阪急京都線の南側) は微高地を呈し、6～8区、11～15・21区からは弥生時代中期の竪穴建物と考えられる遺構や土坑・溝等をはじめ、弥生時代中期から古墳時代前期の比較的良好な遺物包含層を検出した。当該微高地を中心に弥生時代中期～古墳時代前期の集落等の遺跡の存在が想定される。

まとめ

上記の結果を受けて、高槻市教育委員会と協議を行った結果、6～8区、11～15・21区周辺及び地形等を考慮して図37に示した範囲を新たに梶原西遺跡として周知するに至った。



図39 12区検出竪穴建物 (南から)

DBIなら
東奈良遺跡 (13033)

- (1) 茨木市東奈良一丁目・二丁目
- (2) 茨木東奈良住宅中層エレベーター設置事業
- (3) 山田隆一

はじめに

東奈良遺跡は、摂津東部を代表する弥生集落遺跡である。銅鐸を作った銚型やフイゴ羽口等が多数出土したことで有名である。今回、府営住宅にエレベーターを設置するに伴い、発掘調査を実施した。

事業対象となる住宅は4棟であり、住棟部での発掘調査報告書はすでに刊行されている。1987・1988年度調査C・E・G区と1994年度調査C区であり、東奈良住宅3・5・7・12号棟に相当する。ここでは南端のA区(3号棟)の概要を紹介する。

A区の調査成果

図41は、堆積土上部での西壁断面と水田面の確認状況である。複数の粘土層とその間に砂層が確認できる。手前は砂層を除去して検出した水田面であり、東西方向の畦畔を確認した。中へ近世と考えられ、条里地割に沿う生産域が広がる。

図42は、堆積土中ほどで確認した水田面である。水田面には東西方向の耕作痕、人や牛の足跡が残る。3条の東西方向の盛り上がりは、牛に馬銜を曳かせ

た耕作痕と考えられる。中世以降には、条里地割に沿う生産域が広がるようになったのであろう。

図43は、黒色粘土を除去してあらわれた地山面で確認した溝(写真の左)と落込み状遺構である。落込み状遺構の時期は古墳時代後期で、須恵器・土師器の他、馬歯、フイゴ羽口が出土した。

まとめ

- 調査地周辺の状況は、以下のようなものである。
- ①弥生時代は、居住域緑地の墓域と考えられている。先の調査では中期方形周溝墓が確認され、それ以外の遺構は少ない。今回も弥生集落としては希薄なエリアである事を追認した。
 - ②地山面では、古墳時代の遺構・遺物が確認できた。先の調査でも掘立柱建物群が確認されている。また、それより上位の堆積土は、中世から近世におよぶ耕作の集積であることがすべての調査区で確認できる。中世以降には、条里地割に沿う生産域が広がるようになったようである。



図40 東奈良遺跡調査地位置図



図42 中世水田の確認状況



図41 中へ近世水田の確認状況



図43 古墳時代後期遺構の検出状況

よしい 吉井遺跡 (13034)

- (1) 岸和田市吉井1丁目
- (2) 府営岸和田春木住宅エレベーター設置事業
- (3) 竹原伸次・西口陽一・辻本 武

はじめに

吉井遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落跡である。今回、岸和田春木住宅内でエレベーター設置工事が計画されたため、事前に発掘調査が実施された。調査区は5箇所で、調査面積は82㎡である。

調査成果

1区：調査区の規模は、4.1×4.4mである。層序は、盛土の下に旧耕土層・床土があった。その下には、厚さ12cmの暗灰褐色粘質土層があり、古墳時代の須恵器や中世の瓦器・土師器が出土した。須恵器や中世の瓦器・土師器が出土した。その下には、厚さ10cmの灰褐色土層があり、中世の瓦器・土師器が出土した。その下には、厚さ6cmの粘土質の黄灰色土層があり、奈良時代の製塩土器や土師器が出土した。出土遺物は全て細片であった。遺構は検出されなかった。地表下1.1mで検出された地山面は、固い黄灰色粘土層であった。

2区：調査区の規模は、3.7×4.3mである。層序は、盛土の下に、旧耕土層・床土があった。調査区南半部では、その下に厚さ5cmの暗灰褐色土層と厚さ3cmの茶褐色土層があった。酸化鉄が多く沈着した茶褐色土層は、中世以降の床土と考えられ、暗灰褐色土層は、中世以降の耕土層と考えられた。その下には、厚さ12cmの灰褐色土層があり、古墳時代の須恵器イイダコ壺や須恵器杯の他に中世の瓦器や土師器・瓦などが細片で多数出土した。その下には、地山である茶灰色粘土層があり、その面には、鵜溝が3条とピットが検出された。これらの遺構は鎌倉時代の遺構と考えられた。

3区：調査区の規模は3.8×4.4mである。遺構



図44 吉井遺跡と周辺の遺跡

面は遺物包含層を除去した地山面で、高さはT.P.+7.4m前後を測る。この面で精査すると、調査区北端で検出長0.7m、幅0.2m、深さ0.05~0.1mの溝を検出した。方向はN-35°-Eを測る。埋土は暗灰褐色粘質土で、遺物は出土しなかった。包含層出土の遺物は土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦の細片で、詳細な時期は不明である。

4区：調査区の規模は、4.3×4.3mである。層序は、厚さ80cmの盛土の下に、旧耕土層と床土があった。その下に、厚さ12cmの灰褐色土層があり、古墳時代の須恵器や中世の瓦器・土師器・青磁・炭の細片が出土した。その下には、厚さ15cmの粘土質の黄灰色土層があり、土師器が出土した。遺構は検出されなかった。

5区：調査区の規模は3.4×3.8mである。南半部は下水道管の埋設により攪乱されていた。そのため遺物包含層と遺構面が残存していた範囲は半分ほどとなった。遺構面は遺物包含層を除去した地山面で、T.P.+6.8m前後を測る。この面で遺構は見当たらなかった。遺物は土師器・須恵器・瓦器が出土したが、詳細な時期は不明である。

まとめ

今回の発掘調査の結果、鵜溝やピットが検出され、中世以降の水田・畑跡の存在が判明した。また、中世瓦が出土し、寺跡の存在も推定された。須恵器イイダコ壺の出土により、大阪湾における鵜溝との関連も考えられた。



図45 調査区位置図

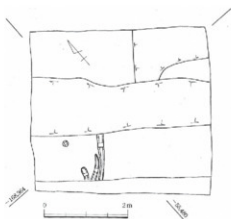


图46 2区平面图

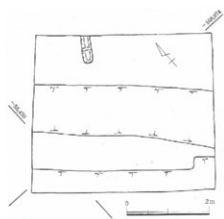


图47 3区平面图

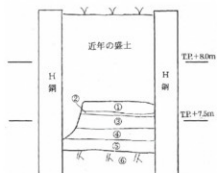


图48 断面模式图 (1区)



图49 1区



图50 2区



图51 3区



图52 4区



图53 5区

かじ こうざき ほんちなか 加治・神前・畠中遺跡 (13039)

- (1) 貝塚市畠中一丁目
- (2) 大阪府立貝塚高等学校本館改築工事
- (3) 竹原伸次

はじめに

加治・神前・畠中遺跡は、貝塚市の北西部に立地し、これまでの調査により縄文時代から中世の遺物や遺構が発見されている。

本府教育委員会では、平成24年度に試掘調査を実施し、遺構・遺物を発見した。このため、遺跡の範囲を広げ、平成25年度に発掘調査を実施した。

調査成果

調査地は、旧校舎の基礎などで遺構面が破壊されていたが、奈良時代の掘立柱建物跡5棟と井戸、溝、土坑などを発見し、この地点が集落であったことを確認した。

建物跡1、4は2間×2間、2間×3間の建物であることが確認できたが、その他は調査区外に広がっておりその内容を明らかにすることはできなかった。また建物5は2間×4間以上の建物であり、東側に庇がついている。井戸は直径約4mの円形で

深さは約1.4mを測る。

遺物はサヌカイトの剥片、奈良時代の須恵器の坏、坏蓋、高坏、甕等や土師器の坏、高坏、甕、中世の瓦器碗などが出土した。井戸からは、「新」と墨書された須恵器杯身が出土した。

まとめ

建物跡や溝の方向は、ほぼ東西南北を基準としており、現在の条里とは異なっている。貝塚市教育委員会が、高等学校の南約400mにある市役所周辺で発掘調査を行った際にも、同じ方向をもった建物跡や溝を発見している。今回の調査で、奈良時代の集落域がより広範囲に及んでいたことが確認できた。

この一帯は、奈良時代には和泉国日根郡近木郷(いずみのくににひねぐんこぎょう)と呼ばれており、今回の調査で近木郷の様相の一端を明らかにすることができた。



図54 加治・神前・畠中遺跡調査地位位置図



図55 建物跡3・4・5、井戸検出状況(東から)

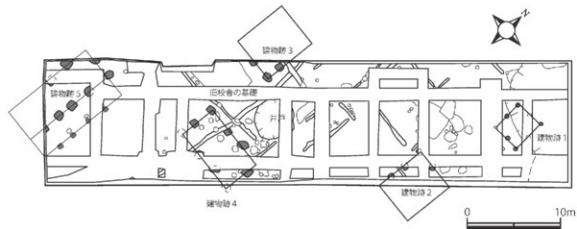


図56 遺構平面図

かみがいと 上垣内遺跡等 (13040)

- (1) 寝屋川市明和二丁目
- (2) 主要地方道枚方富田林泉佐野線（都市計画道路梅が丘高柳線築造工事）
- (3) 岩瀬 透・阿部幸一

はじめに

寝屋川市明和地内において、主要地方道枚方富田林泉佐野線（都市計画道路梅が丘高柳線）建設予定地を対象に、確認・試掘調査を実施した。

該当地区の東端部は上垣内遺跡として周知されているため、道路建設予定地内の状況を具体的に把握するために確認調査を、また西側については、これまで埋蔵文化財の有無が確認されていないので試掘調査を実施することになった。調査は、道路建設予定地内に20ヶ所のトレンチを設定して実施した。

調査の概要

№1～№11、№13、№20トレンチ

上垣内遺跡の西側に隣接する地域であったため、対象地域内に13ヶ所のトレンチを設定して遺構・



図57 上垣内遺跡等調査地位置図

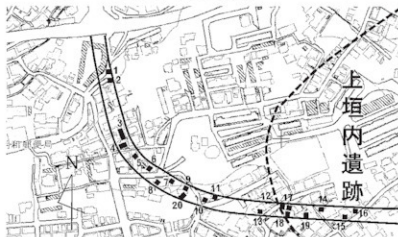


図58 トレンチ配置図

遺物の有無を確認した。その結果、大部分の地点では丘陵を形成する堆積土が認められるのみで、遺構・遺物は検出されなかった。

ただし、東半部の一面に近接して設定した№7～№9トレンチのうち、№9からは、遺構は検出されなかったが、遺物包含層が確認され古墳時代の土器片が出土した。さらに、包含層の広がりを確認するため№9の南側に設定した№20からは、古代～中世の遺物包含層と、その下面で遺構（溝）を検出した。№12、№14～№19トレンチ

対象地域の東端部にあたる上垣内遺跡の範囲内に遺跡の詳細を確認する目的で、7ヶ所のトレンチを設定した。

その結果、各トレンチとも近年まで存在していた住宅の宅地造成のために削平を受けた状態で、整地土の下は丘陵を形成する砂や粘質土となっていた。所によっては住宅を解体した際の瓦礫を埋めた穴が認められた。いずれのトレンチも、遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

確認・試掘調査の結果、上垣内遺跡の範囲内にあたる部分では、この地の地形（生駒山系から派生する丘陵）を形成する砂や粘質土であった。宅地造成の際に大きく削平を受けたものと考えられる。その他の地点においてもこの状況は概ね一致していた。

ただし、周知の遺跡の範囲外ではあるが、№9および№20付近の約50mの範囲の一部で遺構が検出され、部分的に遺物包含層が残存していることが明らかとなった。



図59 調査状況 (№4トレンチ)

さ やまはんじん や あと
狭山藩陣屋跡 (13050)

- (1) 大阪狭山市池尻
- (2) 府道河内長野美原線歩道設置工事
- (3) 小林義孝、奥 和之、西口陽一、林日佐子、辻本 武

調査に至る経過 石高1万石の大北条氏の狭山藩陣屋のうち上屋敷は、藩主の御殿を中心として、中央を南北に貫く大手筋を基準にして町割りされ、上中級の家臣の屋敷が集中する。

現在、大手筋は府道河内長野美原線の一部となっており、交通量も多く歩行者の安全を確保するため歩道設置事業が実施されている。今回の調査は、陣屋跡の北部、当該府道と南海電鉄高野線が交差する地点の南側で実施した。調査面積は、約150㎡である。

調査地点 今回の調査地点は、大手筋に直交する街路によって北地区と南地区に分かれる。北地区は江戸家老をつとめた舟越家の屋敷の東端の部分にあたる。南地区は、藩主御殿の裏門付近にあたり、藩主の既や籠に関わる者の部屋が設置されていた。

北地区の調査 調査区西部は舟越家屋敷跡の一部、東部は大手筋に当たる。両者の間に石組の護岸をもつ水路が遺存していた。

屋敷跡は、大手筋側溝に沿うように土坑やピットを多数検出した。大手筋は砂・小石・瓦小片などを突き固めて、厚さ数cmの路面を造る。屋敷跡の遺構群や石組護岸の側溝からは瓦を主とする遺物が大量に出土した。

南地区の調査 大手筋の一部とその側溝、西側の御殿側の側溝肩部に1列の柱列が検出された。大手筋の縁部には打ち割った平瓦などを用いた瓦積が構築されていた。大手筋の下層からは長さ約9.5m、幅1.5m以上、深さ約0.6mを測る土坑(土坑1)を検出した。土坑1には大量の瓦や陶磁器などの遺物ともに炭や灰も大量に検出された。火災後に発生した瓦礫を埋めたものと推測される。

遺構の時期 狭山藩陣屋跡は、天明2年(1782)に焼失し、その後復興されている。南地区の土坑1は瓦礫の処理のため、火災以前に掘削したものである。復興の工事で南地区では大手筋を整備し、路肩に瓦積を構築する。北地区では石組の側溝を整備した。

出土した遺物 コンテナ約100箱の遺物が出土した。波佐見焼、肥前焼(京焼系)、丹波焼徳利、堺摺鉢など多くの日常雑器が出土した。しかし瓦類がその大部分を占める。軒瓦は巴文軒丸瓦、唐草文軒平瓦で構成されるが、藩主北条氏を象徴する三鱗文の鳥舎と軒丸瓦も1点ずつ出土した。

また、塀の瓦生産者を示す「堺谷傳兵衛」と刻印された平瓦も出土している。

まとめ 今回においては上屋敷北部の大手筋とそれに向けた屋敷跡、御殿跡の関係を把握することができた。幕末の様相をしめした陣屋跡の絵図との比較が今後の課題である。

今回の調査区では大量の屋瓦が出土した。この付近には瓦を葺いた家屋が多く存在したことを示す。しかし陣屋全体の中では瓦葺の家屋が主流でなかったという。既存の調査資料を含めて陣屋跡全体のなかでその意味を考える必要がある。

これまで狭山藩陣屋跡では、小規模な断片的な調査が大部分であった。今回は小規模ながら大手筋と隣接する屋敷跡の様相を把握することができたのが最大の成果である。



図60 狭山藩陣屋跡全景



図61 大手筋の瓦積

喜志遺跡 (13060)

- (1) 富田林市喜志町三丁目
- (2) 一般国道(旧)170号歩道設置工事
- (3) 奥 和之・竹原伸次

喜志遺跡は、富田林市の北端および羽曳野市の南端に位置し、石川左岸の段丘上に営まれた弥生時代の集落遺跡である。特に二上山から産するサヌカイトを素材とする弥生時代の打製石器が多量に出土することで著名である。

大阪府では、一般国道(旧)170号における交通安全のため、歩道設置事業を進めており、平成25年度は、喜志町3丁目地内でも歩道設置工事が計画されていた。当該地は喜志遺跡の範囲内に当たるため、大阪府教育委員会は大阪府富田林土木事務所と協議し、遺構面が破壊される擁壁及び擁壁外側水路部分の発掘調査を実施することとなった。

現状の道路は、交通量が多く工事に際して交通規制が厳しく、また周辺の地形より約1mほど盛土されていたため、どのように調査するか問題となった。このため、新たに設置される水路部分の調査を実施し、遺構・遺物が発見されれば擁壁部分の調査を実施することで調査を開始した。

水路部分の調査区は、幅約1m、長さ約40mである。現耕作土を20~30cm除去するとすぐに黄褐色礫混じり土の地山になる。遺物包含層はなく、地山

直上からも遺構は発見されなかった。この結果、遺物包含層、遺構面はすでに削られているものと考えられ、擁壁部分の調査は不要と判断した。



図63 調査区全景(北から)



図64 調査区全景(南から)



図65 土層断面(東から)



図62 喜志遺跡調査地位置図

古市古墳群における馬形埴輪の新資料～はぎみ山遺跡1984年の調査から～

1. はじめに

本資料は、1984年に藤井寺市のはぎみ山遺跡内に所在する大阪府美陵ポンプ場内の工事に伴って実施された発掘調査の出土資料である。本資料は、管見したところでは古市古墳群内では類例のみられない、馬装を線刻のみで表現した馬形埴輪の破片である。また、出土地点(図66)の周辺は、応神陵(菅田御嶽山)古墳の外堤西側にあたり、豊富な形象埴輪が出土した葺上山古墳(全長53mの帆立貝式前方後円墳)や畿内でも初期の横穴式石室が見つかったことで著名な藤の森古墳(径22mの円墳)、全長103mの前方後円墳であるはぎみ山古墳が点在(図66・67)しており、きわめて示唆に富む資料である。そこで、現在まで未報告のままとなっていた本資料について、本稿で紹介し、古市古墳群における今後の形象埴輪研究に資することとしたい。

2. 発掘調査の概要

はぎみ山遺跡は、東の中段段丘面にのる応神陵古墳と西の中段段丘面にのる仲哀陵古墳にはさまれた、低位段丘面に立地する、旧石器時代から近世までの複合遺跡である。旧石器時代の住居跡のほか、古代寺院址の野中満願寺、奈良時代の掘立柱建物群等、中世の遺構などが主に見つかっている。

1984年に調査が行われた大阪府美陵ポンプ場内は、はぎみ山遺跡の東端にあたる。遺構面は6面確認されており、古墳時代、奈良時代、中世の溝・土坑などが見つかっている。

出土遺物は、本稿で紹介する馬形埴輪のほか、円筒埴輪や盾、鞍等の形象埴輪、本稿の馬形埴輪とは別個体の馬形埴輪片、須恵器、土師器、瓦器碗、瓦

器皿などがある。本資料を含め遺物の大半は包含層中から出土したようであり、埋没古墳の痕跡も見つかっていないことから、本資料も周辺の古墳からの流入によるものと考えられる。

3. 資料観察

馬形埴輪の胴部片である(図68・69)。最大で縦24.2cm、横34.8cmを測る。

本資料の外面上部に、鞍褥、鐙、障泥がそれぞれ線刻で表現されている。馬の背に鞍を乗せる前に敷く鞍褥の輪郭を2条の沈線で表現しており、そのあたりから下にのびる帯状のものとその先端に環状の線刻がある。これは、鞍から吊り下げられた革帯とそれに取り付けられた輪鐙を一体的に表現したものと考えられる。ただし、革帯がどこから吊るされたかどうかは、磨滅しているため不明瞭ながら、きちんと表現されていないようである。また、馬が蹴上げる泥を防ぐための障泥は、上端および吊り金具を2条の沈線で表現している。下端及び左端は板状の面をもつが、右端は板状の面をもたない。つまり、写実的な飾り馬の埴輪にみられる、障泥の三辺が1枚板で表現されるものではなく、一方が胴体と連続的につながる形態になると考えられる。

なお、障泥の右方には、径2.7cmの小さな円形の透かしが穿孔されている。

鐙の取り付け位置と鞍褥との関係から、馬の前面は外面右方向になると思われる。つまり、本資料は、馬形埴輪の右胴部の破片である。外面からみて右半部がゆるやかに内湾していることから、胴体の前面及び頭部に向かう部分であることが首肯される。

内面は、斜め方向の丁寧なユビナデ調整が施されている。内面の下部には貼り付けた帯板状の欠損部

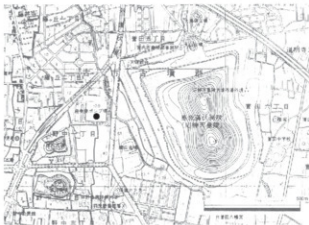


図66 はぎみ山遺跡調査地位置図



図67 美陵ポンプ場内及びその周辺



図68 馬形埴輪 (左:外面。右:内面)

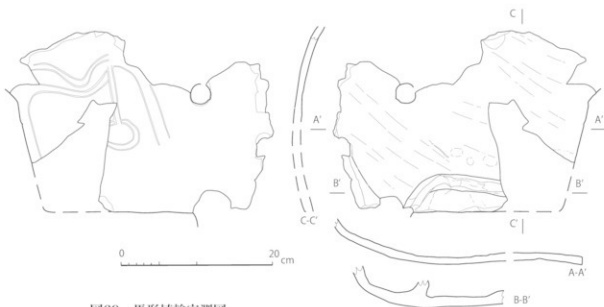


図69 馬形埴輪実測図

分が認められる。そのうち下へのびる部分は、外面右下の湾曲部分と一体で円筒状になるようであり、右前脚となる。

また、帯板状の水平部分は、馬の腹につながる部分である。腹部は水平あるいはわずかに垂れ下がる形態になるようである。

なお、図面・写真の掲載にあたっては、厳密には断定できないものの、障泥の左右よりも下端ラインを重視して水平に据えて提示している。

4. 考察—まとめにかえて—

本資料は、馬装の全体像がいかなるものか断定はできないものの、鞍褥から輪鍔、障泥がすべて線刻で表現されており、全体的にみてもきわめて簡略的な表現の馬形埴輪であると考えられる。

古市古墳群の中でも全体像が判明している馬形埴輪の資料は少ないものの、轡や手綱、鞍褥、鍔など部分的には馬装を立体的、写實的に表現する飾り馬か裸馬の資料であり、本資料のように馬装の表現を

簡略化したものは管見の限りでは認められない。

1984年の発掘調査では、別の遺構面や包含層から立体的な表現の輪鍔や紐で巻いた尻尾など明らかに別個体となる馬形埴輪片や、貼付突帯口縁で外面にB種ヨコハケを施す大型円筒埴輪片、小型円筒埴輪片が出土している。その様相から、本資料を含めた埴輪の時期としては概ね5世紀の中頃から後半にかけての年代観が与えられよう。

本来の樹立古墳について断定はできないものの、周辺には時期的にも近いはざま山古墳や蕃上山古墳、藤の森古墳などがあり、示唆に富む。

簡略的な表現の馬形埴輪は、5世紀末以降、主として東国で盛行するが、本資料の存在から畿内での出現時期はより古く遡る可能性が出てくる。馬形埴輪の初現は古市古墳群の野中宮山古墳(5世紀初頭)であるが、本資料のような例の出現過程や変遷について考える上で貴重な資料である。

(小浜 成)

和泉池上文化財収蔵庫の建設

■遺物収蔵の変遷と収蔵庫建設

現在、大阪府教育委員会が収蔵する遺物はコンテナ（40×60×15cm）で約16万箱に及ぶ。これらの遺物は下表のように、府内各地域に所在する収蔵庫及び本調査事務所に収蔵されている。

1997年に本調査事務所が開設された際、それまでの出土遺物は各地に分散していた調査拠点（その多くは発掘調査事業に伴って建設された仮設の建物）に収納されていた。これら遺物のうち、編年基準資料となる遺物や活用度の高い重要資料を選定して調査事務所に収納し、各地域の事務所は収蔵庫として維持し、それぞれの地域出土遺物を中心に収納してきた。

これら地域の収蔵庫はそれぞれの調査原因となった事業の終息に伴い、閉鎖と用地返還を求められることとなり、これら遺物を収納するために新たな収蔵施設の設置が必要となった。この事態に対応するため、廃止施設となっていた旧府立泉佐野勤労青少年研修センター（大阪府商工労働部所管）、テクスピア大阪内の教室をそれぞれ泉佐野収蔵庫・泉大津収蔵庫として開設し、閉鎖収蔵庫の遺物を搬入した。また2009年度に府から堺市に移管した泉北考古資料館保管遺物も国指定重要文化財である須置器資料を堺市に移管した以外の遺物は泉大津収蔵庫に移動した。

年々増加する出土遺物や、公益財団法人大阪府文化財センターから返還された遺物を受け入れたため、既存の収蔵施設はほぼ収蔵可能量いっぱいの状態となった。その上に、1万4千箱を収納していた泉大津収蔵庫が、テクスピア大阪の管理運営主体の変更によって2013年度中の立ち退きを求められた。また、約7万箱を保管していた東大阪収蔵庫も用地所有者の西日本高速道路株式会社から用地の返還また

は土地賃借料の支払いを求められる事態となった。

このような状況のなかで、新たな収蔵庫の建設は焦眉の課題となり、2012年度に新収蔵庫建設の予算を要求することとなった。

■新収蔵庫建設予算要求と査定

新収蔵庫建設用地は大阪府立弥生文化博物館に隣接して和泉市が所有していた用地約4502㎡。収蔵庫は独立した3棟の建物で予算要求した。財源は旧府立横山高校跡地と府営泉北信太住宅温水プール用地との交換で取得することとした。

予算査定の結果、要求した3棟のうち公益財団法人大阪府文化財センター保管遺物の収納に充てる計画の1棟は認められなかったが、2棟分の建設予算と用地購入費が認められた。2012年度に実施設計、2013年度に建設工事という短期間での事業計画となった。

■収蔵庫の活用方針

収蔵庫建設の決定に伴い、遺物管理を所管する調査管理グループを中心に検討委員会を構成し、基本計画に該当する事項について検討した。

2011年度には実施設計委託発注するため、設計の条件となる基本計画について早急に結論を出す必要があった。

第一 資料調査や貸し出しをはじめ、収蔵資料の多様な活用を前提とする収蔵庫として管理運営することである。

第二 収蔵庫内に資料活用・管理のための部屋を設置すること、遺物収納棚を設置すること。また、これら機能を考慮して、2棟積層ではなく、1棟2階建ての設計とした。

第三 隣接する大阪府立弥生文化博物館との景観上の整合を図る意匠・色調とすること、であった。

表4 収蔵庫別遺物量変遷

収蔵庫名	取得年	H11年 収蔵数	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H26.05.31現在		
												収蔵容量	収蔵状況	収蔵率
和泉池上収蔵庫	H25										14,082	77,000	14,082	18%
東大阪収蔵庫	H6	80,861	70,753	70,276	70,276	62,558	53,504	49,162	48,609	48,597	48,597	70,500	48,597	69%
北部収蔵庫	H2	2,600	3,171	3,171	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276	3,640	3,276	90%
調査事務所	H9	7,700	8,350	8,408	6,771	6,771	6,771	6,528	6,528	6,955	7,446	6,700	7,446	111%
泉北収蔵庫	S54	32,500	34,809	42,461	43,200	36,526	38,293	38,182	38,182	38,182	38,182	38,500	38,182	99%
近つ飛鳥博物館			7,762	7,762	7,762	7,762	7,762	7,762	7,762	7,762	7,762	8,000	7,762	97%
泉佐野収蔵庫	H21					16,699	27,115	32,219	38,347	41,981	41,981	42,000	41,981	100%
泉大津収蔵庫	H21					10,164	13,521	14,123	14,123	14,082				
志紀収蔵庫	H7	2,542	3,097	3,097	3,710									
大井収蔵庫	S54	11,318	12,748	12,664	12,514									
泉北考古資料館	S45	10,600	10,559	10,559	10,799									
外環古室収蔵庫	S54	7,800	7,650											
合計		155,921	158,899	158,398	158,308	143,756	150,242	151,252	156,827	160,835	161,326	246,340	161,326	65%

実施設計の委託にあたっては上記の3点を基本として提示し、設計に反映させた。

■収蔵庫建設用地の埋蔵文化財調査

実施設計にあたり、当該地が周辺の遺跡池上曾根遺跡の範囲内であり、また史跡池上曾根遺跡に近接するため、収蔵庫建設による地下遺構の損壊を避ける工法を検討するため、遺構遺物の状態の確認調査を実施した。

調査の結果、現代の駐車場盛土の直下に黄灰色粘質シルト(中世～近世耕土)、以下、黄褐色粘質シルト(中世～近世床土?)、暗灰色褐色粘土(地山か?)、黒褐色粘土(地山)、灰黄色粘土(地山)の堆積が確認された。しかし遺構は確認できず、遺物も旧耕作土直下の近世耕作土と思われる黄灰色系の粘質シルト層内から須恵器、瓦器、土師器の小片が数点出土したのみであった。そのため、発掘調査の必要はないが、施工時に立会することとし、和泉市にも通知した。また、建物建築位置は攪乱坑の多い敷地東部にすることとした。

■建築のスケジュールと遺物運搬の計画

建築工事は2013年度の発注施工となった。竣工時期が2013年度末になるため、棚購入設置と泉大津収蔵庫からの遺物搬入を2013年度内に完了することが困難な状況となった。このため泉大津収蔵庫を2014年度5月まで借用できるようテクスピア大阪と交渉するとともに、棚設置予算(国庫補助率50%)も2014年度当初に執行できるよう準備を進めた。

■建設工事

収蔵庫の仕様は以下の通り

- ・所在地 和泉市池上町4丁目190-1ほか(住居表示:和泉市池上町4丁目9番40号)
- ・敷地面積 2888.02㎡
- ・建築面積 1階1158.89㎡ 2階1158.89㎡
- ・建築延べ床面積 2317.78㎡
- ・構造 鉄骨造2階建
- ・基礎 柱状改良地盤上に独立基礎、地中梁

建築工事は9月着工、2014年3月20日に竣工し、公共建築室より引き渡しを受けた。

■棚購入設置

遺物収納用の棚は現在調査事務所2階収蔵室設置の棚と同様の仕様とし、遺物はコンテナに入れた状態で棚に収納することを基本としてコンテナ番号で管理することとした。荷重の関係も考慮して、棚は2階全面に設置し、活用頻度が高い遺物や報告済遺物を収納することとした。購入にあたっては、府総務部契約局より一般競争入札で発注し、5月15日に設置を完了した。

■遺物搬入収蔵

遺物搬入は明け渡しの決定している泉大津収蔵庫所蔵遺物をすべて搬入することを基本にし、調査事務所所蔵の船材(部屋北遺跡)及び、東大阪収蔵庫に保管していた棚類を収蔵展示用に運搬した。これらの作業は契約局から一般競争入札で発注し、5月末にすべての業務を完了した。(阪田育功)



図70 和泉池上文化財収蔵庫外観



図71 2階棚遺物収納状況

■研修事業

例年の事業として、国際協力機構（JICA）の海外留学生研修を受け入れたほか、調査事務所中学生の職場体験学習（2校4名）を実施した。また今年度初めて中学校からの依頼を受けて発掘調査現地における発掘調査体験と遺物整理体験学習を実施した。

JICA研修は海外各国の博物館・文化財担当者の研修であるが、彼らの知的要求を把握し、それに応え得るメニューの準備が重要である。

中学生の職場体験は働くことの体験を基本として、生徒の力量に応じて適宜体験内容に変更修正を加えながら実施しているが、洗浄等の基本作業に加え、デジタルでの描画や報告資料作成に興味を示すことが最近の特徴である。

■発掘調査成果の公開事業

4遺跡5回の現地公開を実施した。鳩原遺跡では府内でも有数の縄文中期の遺構遺物を公開し、地元住民多数の見学があった。調査成果は公開することを基本に現地公開事業を計画し、それぞれの現地公開の場では世界文化遺産候補「百舌鳥・古市古墳群」の宣伝も行った。

そのほか、現地公開のできなかつた遺跡についても発掘調査成果を大阪府ホームページに公開した。



図72 鳩原遺跡現地公開状況（1）



図73 鳩原遺跡現地公開状況（2）



図75 中学生体験学習（1）



図74 加治・神前・畠中遺跡現地公開状況



図76 中学生体験学習（2）



図77 中学生体験学習（3）



図78 中学生体験学習（4）

■調査成果の展示・関連講演等

大泉遺跡の発掘調査成果を柏原市立歴史資料館で連発的にスポット展示した。高石市立図書館郷土資料室では「茅渚の海の生業（なりわい）」と題して漁撈・製塩・地域（国際）交流関連遺物の展示を行った。今回展示は高石市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センターと共催で実施し、関連してセンター職員が同市図書館で開催された公民館講座で講演した。同内容の展示を堺市立泉北すえむら資料館において堺市教育委員会と共催で実施した。大阪府立弥生文化博物館内の弥生プラザにおいて四條畷市雁屋遺跡出土遺物を展示し、あわせて、ミニシンポジウムで講演した。近つ飛鳥博物館には岬町小島東遺跡の遺物を出展し、過去の特徴的な調査成果を再検討した成果を公開した。

■出かける博物館事業（講演・遺跡案内・イベントの応援

各団体が実施する講座への講師要請をうけて職員を派遣した。2013年度は28件（2012年度は16件）に増加している。担当者は7名（2012年度は9名）と特定の担当者が多数の講座を連続して担当している傾向が強い。

職員の研究実績に基づく講演依頼に対してはすべて応じているが、対外的な働きかけには至っていない。講演活動などを主宰する多様な団体個人と、行政との協働が重要である。

■大阪府ホームページでの調査成果公開

大阪府ホームページ開設時から文化財保護課のページで埋蔵文化財情報として調査成果を公開してきたが、今年度は更に充実して「学校に眠る遺跡」コーナーを新設し、過去の高等学校関係の調査成果を公開した。同内容は大阪府の府教委ニュースにも記載し、組織内にも広報している。今後も府民が広く接することが可能な方法によって、成果を公開することが重要である。

■その他の事業（研究活動等）

継続的に資料閲覧や資料調査に来所する個人や団体に対して、資料を公開し協働して調査研究の発展を図っている。また、調査事務所において府所蔵資料を対象に研究会が開催された。

本府においては未公表も含め、重要資料を多数保管している。今後、多様な機会をとらえてこれら資料を公開しその研究成果について、本年版での資料紹介など、多様な機会を設けたい。

（阪田育功）



図79 大泉遺跡展示（柏原市立歴史資料館）



図80 茅渚の海の生業（高石市郷土資料室）



図81 茅渚の海の生業（堺市立泉北すえむら資料館）



図82 雁屋遺跡展示（大阪府立弥生文化博物館）

表5 平成25年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧(1)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
研修	国際協力機構(JICA)研修	2013年7月1日～5日	調査事務所ほか	博物館学兼コース「考古資料の発掘と保存管理」	JICA研修生(エリトリア・ペルー・スリランカ各1名)	
	大阪府文化財保護推進委員全体研修会	2013年9月6日	弥生文化博物館	平成25年度埋蔵文化財の発掘調査成果	大阪府文化財保護推進委員	
	職場体験学習(中学生)	2013年11月14・15日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	赤坂会中学生体験希望者2名	
	職場体験学習(中学生)	2014年2月5・6・7日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	稲葉南中学生体験希望者2名	
	発掘体験学習(中学生)	2013年12月16日	桜塚古墳群調査現地	発掘調査体験・遺物整理体験	大阪教育大学附属池田中学生体験希望者24名	
発掘調査の現地公開	寺田遺跡現地公開	2013年8月24日	和泉市寺田遺跡現地	府営住宅建設入に伴う調査内容の公開	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	芦生谷遺跡現地説明会	2013年11月2日	河内町芦生谷現地	道路新設工事に伴う発掘調査成果の現地説明	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	城原遺跡現地公開	2013年10月25日	河内長野市城原現地	築造整備事業に先立つ発掘調査成果の現地説明	地元住民	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	城原遺跡現地公開	2013年11月23日	河内長野市城原現地	築造整備事業に先立つ発掘調査成果の現地説明	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	加治浦新島古遺跡現地公開	2014年2月8日	貝塚市加治浦新島古遺跡現地	貝塚高校建設入に伴う発掘調査	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
出かけた心博物展示・関連講演等	柏原市立歴史資料館スポーツ展示「大泉遺跡発掘調査成果速報展」	2013年2月28日～8月24日	柏原市立歴史資料館	財器器等の遺構や遺物のほか、縄文時代の遺物を展示	一般	
	高石市立図書館郷土資料室展示「茅渚の海のなみわい」	2013年10月3日～12月24日	高石市立図書館郷土資料室(アプラ高石4階)	大阪湾沖津跡の出土品からみる海の生活	一般	高石市教委・センター・弥生文化博物館と共催
	堺市立東北すむら資料館展示「茅渚の海のなみわい」	2014年1月15日～3月16日	堺市立東北すむら資料館	大阪湾沖津跡の出土品からみる海の生活	一般	堺市・高石市教委・センター・弥生文化博物館と共催
	弥生プラザ展示「埋蔵遺跡 北河内の弥生時代拠点集落」	2014年4月4日～2015年1月30日	弥生文化博物館	府立西福高校用地出土方形溝溝遺跡出土遺物などを展示	一般	
	文化財保護課調査資料の展示「弥生土器」	2014年2月7日	文化財調査事務所	中学生体験学習による作業成果の展示	中学生	体験学習の一環として実施
出版	近つ飛鳥博物館冬季特別展「歴史発掘おたかさ2013 一大阪府発掘調査最新情報」講演会	2014年3月16日	近つ飛鳥博物館	「おたかさまるるー最新発掘調査の成果」	一般	大井遺跡(河内長野市)との共同調査成果発表
	東北すむら文化財歴史講座	2013年4月28日	堺市立東北すむら資料館	「難波宮の東北大道」	一般	
	東北すむら文化財歴史講座	2013年7月14日	堺市立東北すむら資料館	「河内王権と古代古墳」	一般	
	東北すむら文化財歴史講座	2013年10月13日	堺市立東北すむら資料館	「帆立貝式古墳とは」	一般	
	東北すむら文化財歴史講座	2013年10月27日	堺市立東北すむら資料館	「ヤマト王権と東海・関東」	一般	
	東北すむら文化財歴史講座	2014年2月9日	堺市立東北すむら資料館	「考古学から見た神武天皇伝説」	一般	
	東北すむら文化財歴史講座	2013年3月9日	堺市立東北すむら資料館	「ヤマト王権と近江・北陸」	一般	
	自主学習グループ「みち」講演会	2013年6月17日	岸和田市立公民館	「孝徳天皇の経路のなぞ」	一般	
	調査事務所展示解説・事務所施設業務解説	2013年5月1日	調査事務所	家しく等の歴史を学ぶ会	会員他	
	佳吉歴史探訪会・いちょうコンソーシウム 歴史探訪講座	2013年4月29日	大阪市市立民交流センターすみよし南	「飛鳥時代の佳吉」	一般	
講演	歴史を楽しくしよう	2013年5月22日	堺市合同福祉会館	「西世紀後半における高句麗と倭と韓」	一般	
	くすのきプラザ歴史講座	2013年7月9日	東大阪市若江岩田駅前リージンセンター	「お雇の日本史」	一般	
	くすのきプラザ歴史講座	2013年9月10日	東大阪市若江岩田駅前リージンセンター	「河内風貌の世界」	一般	
	くすのきプラザ歴史講座	2013年11月12日	東大阪市若江岩田駅前リージンセンター	「民俗学者・小島藩治と市原」	一般	
	柏原市立歴史資料館講演会	2013年7月20日	柏原市立歴史資料館	「南河内における科方位遺跡道路と地割」	一般	
案内	堺自由の泉大学	2013年8月1日	堺市立女性センター	ちまたの考古学 道路と交通から堺を探る	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2014年2月6日	堺市立女性センター	堺環濠都市遺跡 都市堺を築いた謎	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2014年3月6日	堺市立女性センター	堺の道語り	講座応募者	
	いちょうコンソーシウム遺跡見学	2013年5月12日	現地	古市古墳群見学会内	会員他	

表5 平成25年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧(2)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
出かける博物館事業(講演・遠路案内等)	いちようコンソーシウム遠路見学	2013年5月26日	現地	百舌鳥古墳群見学案内	会員他	
	いちようコンソーシウム講演会・対談	2013年7月21日	市民交流センターあさひ西	「遠縁証 応神・仁徳天皇時代の百舌鳥古市古墳群」	会員他	
	いちようコンソーシウム対談	2013年9月8日	市民交流センターあさひ西	「遠縁証 倭の玉王と氏族伝承」	会員他	
	いちようコンソーシウム対談	2013年11月10日	市民交流センターあさひ西	「遠縁証 応神天皇・仁徳天皇時代の国郡誌編」	会員他	
	いちようコンソーシウム対談	2013年12月8日	市民交流センターあさひ西	「応神天皇の実在性研究」	会員他	
	奈良大学「奈良学友会」歴史ウォーク	2013年5月19日	現地	河合町南道跡見学案内	会員他	
	東北教養講座	2013年11月21日	ビッグアイ(国際障がい者交流センター)	聖徳太子継長基考	会員	
	東北教養講座 現地学習会	2014年2月20日	現地	現地学習会 飯塚寺と周辺の古墳	会員	
	中央電気倶楽部講演会	2013年7月19日	中央電気倶楽部食堂	仁徳天皇建古墳—百舌鳥・古市古墳群の景系遺産登録に向けて—	会員他	
	奈良考古資料館展示「縄文文化と土器」講演会	2013年1月16日	西宮市教育文化センター	縄文土器の形とマツリ	一般	奈良考古資料館
イベント	弥生文化博物館GWレゾナントライ	2013年5月3～6日	弥生文化博物館	土器バズル等イベント応援	一般	
	安藤忠雄講演会	2014年3月1日	近つ飛鳥博物館	近つ飛鳥を梅いっばいに	一般	近つ飛鳥梅いっばい委員会
	弥生フェスティバル	2014年3月25～30日	弥生文化博物館	弥生文化博物館無料開放 考古学屋台軒等イベント応援	一般	
研究	日中澤国漢国際学術交流会議2013	2013年11月18日	文化財調査事務所	澤国漢研究の日中学術交流会議	研究者	中国澤国漢研究会 中国古家器調査研究会
	製塩土器検討会	2014年1月18日	文化財調査事務所	小島東道跡出土製塩土器の検討	研究者	塩の会
	家形埴輪に関する研究	2014年2月1日	文化財調査事務所	大塚内出土埴輪の検討	研究者	(科学研究補助金事業)
文化財保護課ホームページでの調査成果	なにわなんでも大塚検定 作業委員会	2013年4月11日 10月29日 2014年2月2日	大塚検定会議所	検定作業とその検討	作業委員	
	和泉寺跡府中道跡	2013年2月～4月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	道跡新築に伴う調査 流跡から古墳時代前期の土器・大塚出土土器 流跡型器など出土 道跡新築に伴う調査	一般	
	安威城跡	2013年5月～8月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	古墳時代後期後半(6世紀後半)に属する竪穴住居跡を3棟発見	一般	
	大塚道跡	2013年4月～9月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	縄文土器、弥生時代型瓦住居跡、古墳時代前期遺構、平安時代東野街道	一般	
	加治・神前・轟中道跡	2013年11月～ 2014年2月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府立真理高等学校敷地に伴う調査 奈良時代掘立柱建物等検出、遺構遺物出土	一般	
	狭山藩陣屋跡	2014年1月～2月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	歩道設置工事に伴う調査 障壁大手前と寄家船越部の一帯検出	一般	
	東宮奈良道跡	2013年10月～ 12月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府営住宅エレベーター調査 弥生時代から古墳時代は集落の周辺にあたる	一般	
	芦生谷道跡	2013年6月～ 2014年2月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	道跡新築に伴う調査 古墳時代後期の竪穴住居跡4棟など検出	一般	
	鳩原道跡	2013年9月～ 12月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	藩邸整備事業に伴う調査 縄文時代中期末住居址、中世建物跡など検出	一般	
	寺田道跡	2013年9月～ 12月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府営住宅建設に伴う調査 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺物出土	一般	
	小島東道跡	2013年12月15日	埋蔵文化財情報出土資料紹介	小島東道跡から出土した製塩土器を再整理	一般	展示「茅渚の青のなびわい」(高石・堺)に出展
	和泉寺跡・府中道跡	2014年2月21日	埋蔵文化財情報出土資料紹介	和泉寺跡府中道跡出土の流跡型器の資料紹介	一般	
	大塚城跡	2013年11月26日公開	埋蔵文化財情報学校に届く道跡	大塚前高等学校	一般	府教委ニュースに掲載
	岸和田城跡	2013年12月20日公開	埋蔵文化財情報学校に届く道跡	岸和田高等学校	一般	府教委ニュースに掲載
	高槻城跡	2014年1月20日公開	埋蔵文化財情報学校に届く道跡	槇の木高等学校	一般	府教委ニュースに掲載
履屋道跡	2014年2月25日公開	埋蔵文化財情報学校に届く道跡	四条堀高校	一般	府教委ニュースに掲載	
砂道跡	2014年4月1日公開	埋蔵文化財情報学校に届く道跡	交野支援学校四條堀校	一般	府教委ニュースに掲載	

平成25年度検討会および資料

1. 調査・研究等の検討会

- 第1回 2013年6月12日(水)
「高井田横穴群第1支部の紹介」 山田隆一
- 第2回 2013年7月10日(水)
「中世の里太井・小深一太井遺跡の発掘調査成果」 竹原伸次
- 第3回 2013年9月11日(水)
「防災研修」 藤永正明
「百舌鳥・古市古墳群世界遺産デモビデオ」 阪田育功
- 第4回 2013年10月9日(水)
「近世大名墓研究の現状」 小林義孝
- 第5回 2013年11月6日(水)
「東日本の復旧・復興に伴う埋蔵文化財調査支援一岩手県の場合」 横田 明
- 第6回 2013年11月13日(水)
「弥生・古墳の戸口装置一板扉から建物像を考える」 松岡良憲
- 第7回 2013年12月11日(水)
「シルクロードを旅して」 奥 和之
「残念石の記録一生駒山地区西斜面石切丁場跡群の分布調査」 三宅正浩・亀島重則
- 第8回 2014年1月8日(水)
「黄泉の国(ギリシャ神話の異界訪問譚)と、オペラ」 藤永正明
- 第9回 2014年2月12日(水)
「縄文農耕論の今日」 大野 薫
- 第10回 2014年3月6日(水)
「岩手県における復興事業の進捗と課題について」 横田 明
- 第11回 2014年3月12日(水)
「大阪府における縄文時代中期末の画期について」 渡邊昌宏

2. 所蔵資料

- 埋蔵文化財(各収蔵庫・整理箱数)
- (1) 北部収蔵庫(摂津市島飼中) 3,276箱
(2) 東大阪収蔵庫(東大阪市長田東) 48,597箱
(3) 泉北収蔵庫(高石市綾園) 38,182箱
(4) 文化財調査事務所(堺市南区竹城台) 7,446箱
(5) 泉大津収蔵庫(泉大津市旭町) 14,082箱
(6) 泉佐野収蔵庫(泉佐野市日根野) 41,981箱
(7) 近つ飛鳥博物館(河南町大字東山) 7,762箱
- 民俗文化財
- (1) 谷口家資料 221点
(2) 上辻家資料 132点
(3) 守田コレクション 200点
(4) 上平家資料 150点
(5) 畑野家資料 68点
(6) 三宅家資料 一括
(7) 大恩寺資料 一括
(8) 前西家資料 22件
- 美術工芸品
- (1) 田中家文書一括 5箱4,100点
(2) 「府立大阪博物館」資料
・旧蔵美術工芸品(大阪府指定文化財) 277点
・古銭(大阪府指定文化財) 4箱3,078点
・その他博物館資料 一括
- 写真・図面その他資料(文化財調査事務所)
- (1) 図面資料 一括
(2) 写真資料 一括
(3) 台帳 一括
(4) パネル 一括
- 図書(文化財調査事務所他)
- (1) 調査報告書他 一括

平成25年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧

大阪府文化財報告書

- 2013-1 『芹生谷遺跡Ⅲ』
2013-2 『瓜破北遺跡Ⅱ』
2013-3 『瓜破北遺跡Ⅲ』
2013-4 『久宝寺遺跡・瓜生堂遺跡・讃良郡糸里遺跡』
2013-5 『長池窯跡群』

- 2013-6 『禁野本町遺跡』
2013-7 『柳原遺跡』

概要報告

- 『太井遺跡発掘調査概要・Ⅲ』

年報

- 『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報17』

平成25年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

表6 実物資料・複製資料長期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容 / 点数	目的 (展示内容等)
1	国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石造丁3 計3点	総合展示『稲と倭人』
2	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	青金1 銅1 計22点	常設展示『中世の土地開発と狭山池』
3	大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)	大坂城跡	美濃焼小鉢1、天目茶碗1、鉄軸丸柄1、鉄軸皿2、反軸折縁皿1、 反軸菊皿1、反軸皿1、志野向付1、志野皿1、中国製白磁1、常設展示 (リフレッシュ 青花皿1、ベトナム製色絵皿1、金箔瓦4 計17点	常設展示 (リフレッシュ コーナー)
4	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦1、飾瓦1、軒平瓦1、文字入り平瓦1、軒丸瓦1、天 目茶碗1、須恵器短頸壺1、分銅1、白磁香炉1、美濃水滴1、 鳥文青花大皿1、銅1、葬1 計13点	授業・展示
5	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦10、軒平瓦8、鬼瓦3、雁振瓦1、瓦器柄7、土師皿11、 すり鉢1、土師質羽釜1、陶磁器5、硯1 計46点	授業・展示
6	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺2、須恵器15 (杯5、高杯3、碗1、甕4、こね鉢1、 その他1)、韓式系土器壺1、土師器13(壺3、甕2、高杯3、碗1、 皿4)、瓦器34 (碗31、皿1、火鉢1、釜1)、磁器碗1、砥石1、授業・展示 木製品5 (下駄2、箸2、人形首1)、土鍾1、キセル1、加工骨1 計75点	授業・展示
7	大阪府立四條畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪3、須恵器3 (短頸壺1、甕1、提瓶1) 弥生土器32 (壺7、長頸壺1、無頸壺1、無頸壺蓋1、鉢3、鉢 蓋1、甕7、台付鉢2、台付甕1、器台3、高杯3、手埴形土器2)、 黒色土器柄1、土師器壺2、須恵器7(平皿1、無蓋高杯1、蓋杯 蓋1、蓋杯杯身2、はそう1、壺1)、砥石4、石鍾5 計57点	授業・展示
8	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器壺1、長頸壺1、無頸1、壺蓋1、土師器壺1、須恵器 有蓋高杯1、高杯蓋1、杯身1、杯蓋1、はそう1、円筒埴輪1、 蓋形埴輪6、勾玉4、紡錘車2、臼玉8 計31点	授業・展示
9	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器9(壺2、甕2、鉢2、蓋3)、磨製石斧5 計14点	授業・展示
10	能勢町歴史資料室	上樽遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器壺1 須恵器4 (杯身1、杯蓋2、円面硯1) 土師器高杯1 黒色土器柄2、土師器小皿3 弥生土器8 (土器片1、甕3、無頸壺1、鉢1、蓋1、高杯1)、土 師器7 (壺1、甕3、器台1、杯2) 須恵器5 (杯2、甕3、) 石造 丁4、石斧3、石鍾1、石鍾7 計46点	能勢町歴史資料室 (能勢 町ふるさと会館内) 常設 展示
11	豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器柄7、瓦器片20、土師皿4、須恵器片3、砥石1 計35点	豊能町立郷土資料館常 設展示

12	吹田市立博物館	吉志郎瓦窯	軒丸瓦1、平瓦1、緑釉陶器片2、緑釉瓦片6、窯道具6 計16点	常設展示『桓武朝平安宮瓦窯』
13	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小修理1 計1点	図書館展示室常設展示
14	堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器33(椀27、皿6)、土師器皿1、瓦質羽釜1、鍔型片29、輪 羽口18、鉄製刀子1、青銅製品2、鉄塊系遺物7、砥石7 計99点	常設展示『河内鑄物師』
15	太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓 伽山遺跡	銀製帯金具(レプリカ)一式 須惠器(坏身1、高坏1、器台2)、土師器(坏1、高坏1) 計7点	常設展示(第2展示室)
16	泉大津市立池上曾根弥生学 習館	池上曾根遺跡	炭化米(No.286)1ケース 計1ケース	常設展示
17	和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曾根遺跡	弥生土器12(高杯1、壺7、甕2、蛸壺形土器2) 軒丸瓦6、軒平瓦5 有舌尖頭器2、子持勾玉2、滑石製勾玉1、紡錘車1 文字瓦6、軒丸瓦8、軒平瓦1、石製巡方1 平瓦(人物画像)1、文字瓦4、軒丸瓦1、軒平瓦1 平瓦2、軒平瓦1、軒丸瓦3 弥生土器15(甕1、水差形土器1、高杯3、鉢3、壺7)、木製品 24、(男茎<レプリカ>1、広楕<レプリカ>1)高杯1、把手付鉢1、 鉢1、斧の柄1、布巻具1、用途不明品1、小型四脚付盤2、臼1、 臼<レプリカ>1、杓子2、杓子<レプリカ>1、鍬3、鍬<レプリカ>1、 簀5、石製品23、(鏝2、大型石杵丁2、環状石斧2、石斧9、石 槌5、投擲3)、ヒスイ勾玉1、菅玉5、ガラス玉片3、イノシシの 下顎骨1、鹿角1、骨製ヤス2、骨器未製品5、銅鍬2、八咫鏡1 計136点 レプリカ5点	常設展示
18	宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須惠器109 計109点	常設展示コーナー『考古学研究所』
19	吉志郎神社	吉志郎瓦窯	軒丸瓦1、軒平瓦1、緑釉瓦片2、トチン2 計6点	社務所玄関ロビーに展示
20	交野市教育委員会	大谷窯跡	須惠器24、須惠器片21、袋(遺物袋) 計45点(遺物袋数を含む)	常設展示
21	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器18(椀13、皿5)青磁4、土釜瓦6、土師器11(皿10、壺1) 須惠器11、瓦質皿2、瓦質釜2、常滑甕3、軒丸瓦3、軒平瓦2、 瓦器断片、土師器片7袋(遺物袋) 計69点(遺物袋数を含む)	常設展示
22	箕面市立郷土資料館	箕面経塚	和鉢3、壺1、銅銭4、青白磁合子2、青白磁子壺1、褐釉壺1 計11点	常設展示
23	奈良国立博物館	新堂庚寺 河内寺 百濟寺 高宮庚寺	軒丸瓦7、頭尾片2、極先瓦1 軒丸瓦2、軒先瓦2 軒丸瓦1 軒丸瓦1 計16点	常設展示『仏教考古及び歴史考古の名品』
24	大阪府教育センター	陶邑窯跡群	須惠器(瓶子2、短頸壺1、長頸壺1、蛸壺1、杯身8、杯蓋5、 平瓦1、提瓶1、高坏身1、高坏蓋1、甕1、搦鉢1、無蓋高坏1、 はそう1) 計26点	展示
25	高石市教育委員会	大園遺跡	須惠器、土師器、家形埴輪、朝顔形埴輪、円筒埴輪、瓦器、 羽釜、軒丸瓦、土鉢、蛸壺、石器類、馬南などコンテナ110箱 計整理箱110箱	再整理・公開活用

表7 実物資料・複製資料短期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容 / 点数	目的(展示内容等)
1	泉佐野市教育委員会	安松田遺跡	平瓦2、軒平瓦1、丸瓦1 計4点	歴史館いずみさの企画展『再発見日根荘の世界』
2	和泉市教育委員会	和泉寺跡	淡路型器台2、「珍雀主広足作」銘文字瓦1、「坂合部連」銘文字瓦1、「讃口」銘文字瓦1、「宮」銘文字瓦1 計6点	和泉市いずみの国歴史館特別展『道でひもとく和泉の歴史』
3	大阪府立弥生文化博物館	瓜破北遺跡 節屋北遺跡	船材(船べり部1、仕切板1、舷側板1、櫂) 船体4 計8点	夏季特別展『弥生人の船ーモンゴロイドの海洋世界ー』
4	鈴鹿市考古博物館	西小山古墳	円筒埴輪4 計4点	特別展『伊勢湾をめぐる交流』
5	太子町教育委員会	伽山遺跡 松井塚古墳 細井廣寺 南坪池古墳 甲田南遺跡	須惠器(坏身1、硯4、瓶子2)土師器(壺1、坏1) 土師器坏 一括 埴19 埴2 埴2 計33点	太子町立竹内街道歴史資料館秋季企画展竹内街道設置1400年記念企画展『最古の官道と古代氏族ー二上山麓の古代遺跡ー』
6	大阪府立近つ飛鳥博物館	古市大溝 新堂庚寺 アカハゲ古墳 お亀石古墳 シシヨツカ古墳	土師器(高坏1、壺5)須惠器壺1 垂木先瓦1 黄楊軸円面硯2 平瓦1 ガラス玉357、須惠器(四耳壺1、壺1、無蓋高坏4)、金銅製指輪4、亀甲繫風凰文象嵌円頭大刀柄頭1、亀甲繫風凰文象嵌円頭大刀鞘尻金具1、雲龍文象嵌刀装具1、鉄鏃4、挂甲5、磁金具1、龍文金象嵌鞍金具1、壺釦1、鉄地金銅張吉栗2、雲珠1、飾金具3、座金具1、金薄板3、棟原石1 計403点	秋季特別展『考古学からみた推古朝』
7	太子町教育委員会	鳥坂寺跡	飛鳥戸評銘文字瓦1 計1点	太子町立竹内街道歴史資料館秋季企画展竹内街道設置1400年記念企画展『最古の官道と古代氏族ー二上山麓の古代遺跡ー』
8	能勢町教育委員会	尾道遺跡	木製飯面1、墨書土器「厨」1、墨書土器「口東」1 計3点	地域文化記録事業の記録映像
9	枚方市教育委員会	百濟寺跡	軒丸瓦16、軒平瓦26、丸瓦5、平瓦4、鬼瓦11、隅木蓋瓦1、道具瓦1、刻印瓦1、埴7、磁石1、石片1、須惠器(壺4、3)、『特別史跡百濟寺跡』発掘調査報告書作成 計83点	
10	大阪府立近つ飛鳥博物館	柳原遺跡 太井遺跡 小島東遺跡	弥生土器(高坏1、台付鉢1、壺1、壺3) 瓦器碗1、瓦器皿4、鉄刺1 鹿角製刀装具2、不明鹿角製品3、白玉1連、滑石製品3、スラグ2、銅鏃1 計22点	冬季特別展『歴史発掘おさか2013ー大阪府発掘調査最新情報ー』
11	高槻市教育委員会	八雲遺跡	弥生土器(壺1、鉢1、壺1)、石盾丁2、石鏃1、鉄石英石核2、管玉シャーレ1、玉作り工具(シャーレ10、袋1) 計20点	高槻市立今城塚古代歴史館春季特別展『淀川流域の弥生文化』

表8 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

件数	依頼者	撮影掲載貸出種類	遺跡	資料内容/点数	目的/掲載誌	
1	読売新聞大阪本社	貸出掲載	写真	太井遺跡	墓002遺物出土状況1 計1点	読売新聞夕刊文化面「カルチャー大阪府の中世墓」
2	株式会社新泉社	貸出掲載	写真	藤屋北遺跡	馬塚土坑1 計1点	シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊04『古墳時代ガイドブック』
3	立命館大学考古学論集刊行会	貸出掲載	写真	豊振1号墳 仲津山古墳	円筒埴輪1 円筒埴輪1 計2点	『立命館大学考古学論集』VI「製作技術からみた埴輪様式の成立と展開」
4	藤井寺市	掲載	写真	三ツ塚古墳	大小修羅、椀棒出土状況1 計1点	観光パンフレット『修羅』
5	大阪歴史教育者協議会	貸出掲載	図面		審案1 計1点	『たのしくわかる大阪の歴史』
6	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出掲載	写真	三ツ塚古墳堂山1号墳 平石谷 シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 お亀石古墳 藤屋北遺跡 陶器窯跡群 古市大溝 將軍山古墳 藤の森古墳 松井塚古墳 修羅	修羅出土状況1 墳丘1、副葬遺物出土状況1 遺棄1 墳丘1、高坏が入った壘1 墳丘1 墳丘1 瓦積出土状況1 馬塚土坑1、馬具1 TG61号窯跡復元1 全景1 竪穴式石室1 横穴式石室1 石棚内部1 PEG含浸1、補てん作業1、搬入風景1 計19点	展示ガイドブック『もうひとつの飛鳥からみた日本の古代』
7	韓式系土器研究会	貸出掲載	写真	池島遺跡	402井戸 布留式壘1、陶質土器1 計2点	『韓式系土器研究』XIII
8	株式会社ベストセラーズ	貸出掲載	写真	大坂城跡	太閤橋1 計1点	『歴史人』7月号「黒田官兵衛と軍師の真実」
9	群馬県生活文化スポーツ部文化振興課	貸出掲載	写真	三ツ塚古墳	修羅出土状況1 計1点	『東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～』
10	株式会社雄山閣	貸出掲載	写真	和泉寺跡	文字瓦「珍願主廣足作」1 文字瓦「坂合部連前」1 文字瓦「腹口美力」1 文字瓦「口美力」1 文字瓦「富」1 計5点	『季刊考古学』第124号「最近の発掘から 大阪府和泉寺跡」
11	有限会社キックオフプラス	貸出掲載	写真	池上曾根遺跡	ヒスイ製勾玉1 計1点	岩崎書店『日本の歴史の道具事典』
12	株式会社アドバンス	貸出掲載	写真	大坂城	太閤橋1点 計1点	週刊『世界の貨幣コレクション』第30号
13	株式会社平凡社	掲載	写真	南花田遺跡	ナイフ形石器集合1 計1点	別冊太陽『縄文の世界』
14	株式会社光州文化放送	撮影放映	実物	藤屋北遺跡	木製鞍（レプリカ）1、木製輪鏝1、U字形製品2、移動式カマド1、羽釜1、甗2、壘1、平底鉢3、陶質土器8、鳥足土器ほか3 計23点	国立羅州博物館開館記念特別テレビ番組『馬鞍』
15	堺市文化観光局文化財課	文化財	写真	銭塚古墳	航空写真1、銭塚古墳前方部1、後円部埴輪 列核出土状況1、墳丘盛土1、北側墳丘盛土核 出土状況1 計5点	史跡指定
16	大阪府立弥生文化博物館	貸出掲載	写真	瓜破北遺跡 藤屋北遺跡	遺物出土状況12 遺物出土状況2 計14点	展示図録『弥生人の船ーモンゴロイドの海洋世界ー』
17	株式会社中京出版	掲載	写真	三ツ塚古墳	修羅出土状況1 計1点	瀬音能之『風土記 謎解き散歩』 新人物文庫
18	奈良県考古博物館	撮影掲載	実物	西小山古墳	円筒埴輪4 計4点	展示図録『伊勢湾をめぐる交流』
19	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	貸出掲載	写真	藤屋北遺跡	馬の全身骨格1 計1点	帝國書院『最新日本史図説』
20	個人	撮影掲載	写真	池島・福万寺遺跡	滑石製品（Cl-レンチ出土）29 計29点	学術刊行物（予定）

21	太子町教育委員会	貸出 掲載	写真	河内国分寺 松平塚古墳 伽山遺跡 河内飛鳥寺跡	塔基遺跡全景1、塔基遺跡階段部分2 石室全景2、石椁正面1 建物群全景3、建物柱穴跡・土器出土状況2、 道路状況横全景1 塔心礎2 計14点	太子町立竹内街道歴史資料館 平成25年度秋季企画展『最古の官道と古代氏族—二上山麓の古代遺跡—』に伴う展示及び図録、広報資料等への掲載
22	太子町教育委員会	撮影 掲載	写真	細井慶寺 南坪池古墳 甲田南遺跡	墳19 墳2 墳2 計23点	太子町立竹内街道歴史資料館 展示図録『最古の官道と古代氏族—二上山麓の古代遺跡—』
23	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 掲載	写真	古市大溝	土師器(要2、高坏1) 計3点	展示図録『考古学からみた推古朝』
24	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真	古市大溝 シシヨツカ古墳 アカハグ古墳 陶器窯跡群 TK43-1号窯	001溝(古市大溝) 東から1、001溝(古市大溝) 出土須恵器1 近景南より1、近景南東より1、墳丘前面1、 奥室全景1、羨道埋土細部1、墳丘盛土断面1、 羨道部埋土高坏出土状況2、ガラス玉1、 金銅製指輪1、亀甲紫鳳凰文銀象嵌大刀(柄頭、 鞘尻金具1) 雲龍文金象嵌刀装具1、 桂甲小札・附属具各類1、金銅製馬具類1、 金銅製鐘形杏葉1、金銅製絞具1、金薄板1、 金製紙1 墳丘・壇全景 南東より1、黄褐陶面硯片1 須恵器(坏蓋1、坏身1、脚付椀1) 計26点	展示図録『考古学からみた推古朝』
25	イオンモール株式会社イオンモール藤井寺	掲載	写真	三ツ塚古墳	修理1 計1点	イオンモール藤井寺2Fで展示する藤井寺歴史年表
26	枚方市教育委員会	貸出 掲載	写真 図面	百濟寺跡 田口山遺跡	ガラス乾板紙焼き16、ネガアルバム1、スライドファイル1、1939年遺構平面図1、1939年測量図(トレース)1、百濟寺跡公園案1 ガラス乾板紙焼き(山田村発掘) 9 計30点	特別史跡百濟寺跡発掘調査報告書作成
27	四條畷市教育委員会	掲載	写真	節屋北遺跡	製塩土器出土状況1、馬塚土坑1 計2点	特別展『四條畷の古墳時代』の展示パネル、展示図録
28	茨木市史編さん委員会	貸出 掲載	写真	太田茶臼山古墳	円筒埴輪1 計1点	『新修茨木市史』第7巻史料編考古
29	株式会社建築技術	貸出 掲載	写真	三ツ塚古墳	修理引き揚げ作業状況 計1点	『曳家・家起こしの技術』
30	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議	掲載	写真	節屋北遺跡	土師器壺集合1、壺集合写真1 計2点	HP「世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群」の「こども&A」
31	株式会社メディアックス	掲載	写真	大坂城跡	太閤拵1 計1点	『黒田官兵衛、その波乱の生涯—天国と地獄—』
32	株式会社ベストセラーズ	掲載	写真	大坂城跡	太閤拵2 計2点	月刊『歴史人』特集「敗者の戦国史」(平成25年12月号)
33	豊能町教育委員会	貸出 掲載	写真	川尻遺跡 大里遺跡	発掘現場1 F-14区土坑5(東より) 1 計2点	埋蔵文化財のデータ作成
34	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議	掲載	写真	節屋北遺跡	製塩土器1 計1点	HP「世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群」の「こども&A」
35	茨木市教育委員会	貸出 掲載	写真	初田1号墳 桑原古墳群	墳1、墳出土状況1 墳1 計3点	茨木市立文化財資料館『いばらきの歴史を探ろう!』古代編
36	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	図面・写真 写真	柳原遺跡 小島東遺跡 太井遺跡	遺構平面図1、143土坑断面1 鹿角刀剣出土状況1 1区遺構検出状況1 副葬品出土状況1 計5点	特別展『歴史発掘 おおさか2013—大阪府発掘調査最新情報—』に伴う図録、展示パネル、ポスター、チラシ、ホームページ等
37	堺市	貸出 掲載	写真	銭塚古墳	円筒埴輪集合1 計1点	『堺の文化財 百舌鳥古墳群』
38	藤井寺市教育委員会	掲載	写真	青山4号墳	猪形埴輪1 計1点	市役所1Fロビー展示『古市古墳群 2013世界遺産をめざして! 古市古墳群の小さな古墳たち』に伴う展示パネル

39	之会	貸出 掲載	写真	陶器跡跡群	須恵器集合1、樽形はそう1 計2点	通信教育用学習教材（小学生コース、中学受験コース等）
40	個人	撮影 掲載	実物	池島・福万寺 遺跡	滑石製品（CT-レンチ出土）29 計29点	古墳時代における石製模造品を使用する祭祀の解明 『駿台史学』『古代』に掲載予定
41	鳥根県立古代 出雲歴史博物 館	貸出 撮影 掲載	写真 実物	安威遺跡 応神陵古墳 安威遺跡 応神陵古墳	土器集合1、調査区全景1 円筒埴輪1 計3点 須恵器集合1 円筒埴輪2 計3点	平成26年度企画展『倭の玉王と出雲の豪族』に伴う図録、広報資料等
42	株式会社新風 書房	貸出 掲載	写真	藤屋北遺跡	北東居住域全景1、北東居住域竪穴住居 中部分1、井戸131000 1、井戸2476 1、馬 埋葬土坑1 計5点	季刊誌『大阪春秋』154号 なにわの 考古学最新線④「藤屋北遺跡と 東アジア」
43	大阪狭山市教 育委員会	貸出 掲載	写真	池尻城跡	航空写真1、青金1 祭壇が出現したセタ1 計3点	『大阪狭山市史』第一巻 本文編 通史
44	高槻市教育委 員会	撮影 掲載	実物	八雲遺跡	弥生土器3、石廂丁2、石籠1、石核2、細石 刃1、尖頭器一式 計10点	高槻市立今城塚古代歴史館 平成 26年度春季特別展『淀川流域の弥 生文化』に伴う図録、パネル、広 報資料等
45	茨木市史編さ ん委員会	貸出 掲載	写真	上寺山古墳 見附山古墳	37 54及びフィルム9本 計100点	『新撰茨木市史』第七巻 史料編 考古
46	高槻市教育委 員会	貸出 掲載	写真	八雲遺跡	調査写真1 計1点	高槻市立今城塚古代歴史館 平成 26年度春季特別展『淀川流域の弥 生文化』に伴う図録、パネル、広 報資料等
47	堺市博物館	掲載	写真	四ツ池遺跡	縄文土器（浅鉢1、鉢1） 計2点	常設展示解説パネル「堺の縄文時 代・弥生時代」
48	河内長野市教 育委員会	貸出 掲載	写真	森の宮遺跡	縄文人が食べた魚 1 計1点	シリーズ河内長野の遺跡8『三日 市遺跡・宮山遺跡・三日月北遺跡 ～縄文時代の河内長野～』
49	河内長野市教 育委員会	貸出 掲載	写真	高木遺跡 太井遺跡	高木遺跡周辺の航空写真1 石見川下流から太井遺跡を望む航空写真1 太井遺跡周辺の航空写真1 計3点	シリーズ河内長野の遺跡8『三日 市遺跡・宮山遺跡・三日月北遺跡 ～縄文時代の河内長野～』
50	丹波古陶館	貸出 掲載	写真	藤屋北遺跡	U字形土製品1 計1点	藝術文化雑誌『黎明』第34号、連 載歴史と美の探訪「カマドの伝来 ～倭と加耶の交流（二）」
51	株式会社雄山 閣	貸出 掲載	写真	木の木遺跡	諸手織未成品1 計1点	『季刊考古学』第127号、カラー口 絵「弥生時代におけるアカガシ垂 簾の利用」
52	群馬県生活文 化スポーツ部 文化振興課	貸出 掲載	写真	三ツ塚古墳	修繕出土状況1 計1点	『東国文化副読本～古代ぐんまを 探検しよう～』改訂版
53	富田林市教育 委員会	撮影 掲載	実物	新堂庚寺	南門堀方出土頭尾1 計1点	『富田林の遺跡案内（仮題）』
54	河南町教育委 員会	貸出 掲載	写真	加納古墳群 シシヨツカ古墳 ツカマリ古墳 アカハグ古墳	全景1 奥室全景1、羨道部埋室内高坏出土状況1 羨道全景1 墳丘全景1 計5点	河南町広報誌「広報かなん」No. 497～501（2014年4月号～8月号）
55	藤井寺市教育 委員会	掲載	写真	壹振1号墳	竪形埴輪1 計1点	『ふじでらの世界遺産学習ノート 百 舌島・古市古墳群』第3版
56	藤井寺市教育 委員会	掲載	写真	外塚葺石転落状況1	計1点	藤井寺市広報「ふじいでら歴史紀 行」87
57	公益財団法人 枚方市文化財 調査会	掲載	写真	田口山遺跡	大阪府史蹟名勝天然記念物調査委員会によ る昭和13年の調査1、写真収納封筒1、昭和 13年調査の竪穴1 計3点	『大阪府史蹟 田口山遺跡～平成 22～24年度範囲内確認調査報 告書～』

表9 資料閲覧

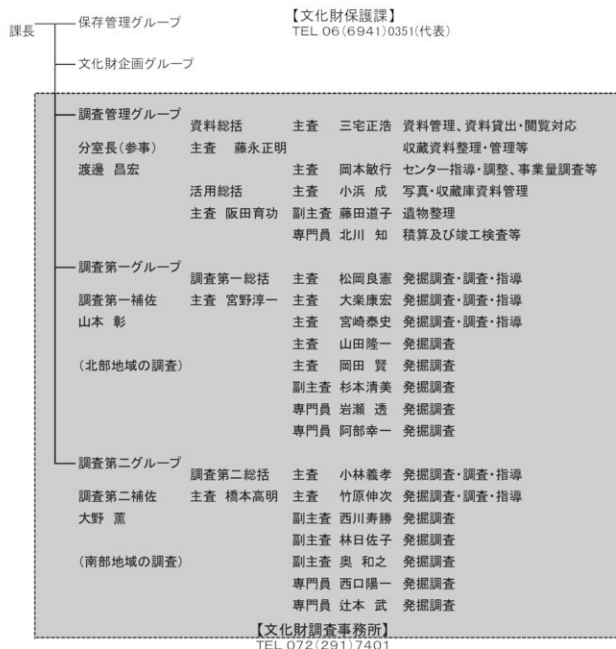
件数 申請者(所属)	遺跡	資料内容	保管場所	目的
1 個人(宇土市教育委員会)	小島東遺跡 蘆屋北遺跡	埴埴土器	文化財調査事務所 泉北收藏庫	学術研究
2 和泉市いずみの国歴史館	和泉寺跡	淡路型器台 文字瓦	文化財調査事務所	展示
3 個人(奈良県立橿原考古学研究所・ 大阪大学大学院・京都大学)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
4 個人(阪南市教育委員会)	百舌鳥陸南遺跡	須惠器	泉大津收藏庫	学術研究
5 大阪府立弥生文化博物館	瓜破北遺跡 蘆屋北遺跡	船材(井戸枠転用)	文化財調査事務所 東大阪收藏庫	展示
6 楽しく頃の歴史を学ぶ会	埴輪資料(ロビー展示部分)	円筒埴輪	文化財調査事務所	学術研究
7 個人(文化庁)	東山遺跡	石皿 散石 磨石	泉大津收藏庫	学術研究
8 個人(京都大学大学院)	淡輪遺跡	縄文土器	泉大津收藏庫	学術研究
9 個人	加納古墳群	須惠器・ガラス玉	文化財調査事務所	学術研究
10 大阪府立近つ飛鳥博物館	池上曾根遺跡 寛弘寺遺跡 総持寺遺跡 土師の里遺跡	弥生土器 瓦 白磁碗 青磁碗 瓦器柄 土器 円筒埴輪	文化財調査事務所	展示
11 個人(京都大学大学院)	淡輪遺跡	縄文土器	泉大津收藏庫	学術研究
12 個人(京都大学大学院)	淡輪遺跡	縄文土器	泉大津收藏庫	学術研究
13 大阪府立近つ飛鳥博物館	桑原遺跡 堺環濠都市遺跡	陶棺(桑原遺跡) 五輪塔(堺 環濠都市遺跡)	文化財調査事務所	展示
14 公益財団法人大阪府文化財センター	池島・福万寺遺跡	陶質土器 土師器壺	泉佐野收藏庫	学術研究
15 大阪府立近つ飛鳥博物館	堺環濠都市遺跡	一石五輪塔	泉北收藏庫	学術研究
16 大阪府立弥生文化博物館	瓜破北遺跡 蘆屋北遺跡	船材	文化財調査事務所 東大阪收藏庫	学術研究
17 国立歴史民俗博物館	蘆屋北遺跡	須惠器 馬具	文化財調査事務所	展示
18 個人(神戸市教育委員会)	府立大阪博物館旧美術工芸品	焼締印文壺	文化財調査事務所	学術研究
19 個人(奈良県立橿原考古学研究所 他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
20 個人(奈良県立橿原考古学研究所 他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
21 光州MBC放送局	蘆屋北遺跡	須惠器 馬具 陶質土器 土 師器 U字形土製品	文化財調査事務所	展示
22 長崎県教育庁 長崎県埋蔵文化財セ ンター	1Fロビー展示ロビー	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
23 鈴鹿市考古博物館	西小山古墳 宇度墓古墳 西陵古墳	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
24 寝屋川市教育委員会	高宮廃寺	軒瓦	泉大津收藏庫	基礎資料作 成
25 大阪府立近つ飛鳥博物館	シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 古市大溝	ガラス玉 須惠器 金銅製 指輪 亀甲製鳳凰文象嵌円 頭大刀柄頭 亀甲製鳳凰文 象嵌円頭大刀鞘尻金具 鉄 鍔 挂甲 馬具 金薄板 金 製鋌 椋原石 他	文化財調査事務所 泉北收藏庫	展示

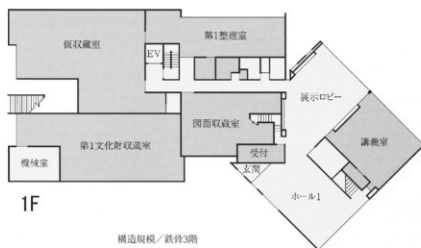
26	大阪府立近つ飛鳥博物館	新堂廃寺	垂木先瓦	泉北收藏庫	展示
27	個人(立命館大学 大阪大学等)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
28	個人(御所市教育委員会他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
29	個人(御所市教育委員会他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
30	太子町教育委員会	伽山遺跡	須惠器 土師器	文化財調査事務所 泉大津收藏庫	展示
31	個人(奈良県立橿原考古学研究所)	百濟寺跡	瓦 埴	泉大津收藏庫	学術研究
32	個人(堺市教育委員会)	河内国分寺跡 百濟寺跡	軒平瓦 軒丸瓦	泉大津收藏庫	学術研究
33	個人(和歌山県立紀伊風土記の丘資料館他)	陶邑窯跡群大野池3号窯	須惠器	泉佐野收藏庫	学術研究
34	個人	和泉寺跡 府中遺跡	手焼形土器	文化財調査事務所	学術研究
35	個人(三重県埋蔵文化財センター)	池島・福万寺遺跡 木の本遺跡	石器	文化財調査事務所	学術研究
36	大阪府立近つ飛鳥博物館	古市大溝 シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 陶邑窯跡群TK43-I号窯	写真	文化財調査事務所	展示
37	大阪府立近つ飛鳥博物館	萱振遺跡	土器	泉北收藏庫	展示
38	個人	成法寺遺跡 亀井遺跡	手焼形土器	泉大津收藏庫	学術研究
39	寝屋川市教育委員会	高宮廃寺	軒平瓦	東大阪收藏庫	基礎資料作成
40	太子町教育委員会	松井塚古墳 伽山遺跡 河内国分寺 細井廃寺 南坪池古墳 甲田南遺跡	写真 写真 写真 埴輪 埴輪	文化財調査事務所	展示
41	枚方市教育委員会	百濟寺跡	写真 図面	文化財調査事務所	報告書作成
42	個人(奈良県立橿原考古学研究所他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
43	個人(奈良県立橿原考古学研究所他)	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
44	国立歴史民俗博物館	蘇屋北遺跡 陶邑窯跡群	土師器 須惠器 須惠器	文化財調査事務所	展示
45	豊能町教育委員会	川尻遺跡 大里遺跡	石器 写真	文化財調査事務所	刊行物
46	個人(羽曳野市教育委員会他)	箸上山古墳	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
47	個人(公益財団法人郡山市文化・学 び振興公社こおりやま文学の森資料 館)	池島・福万寺遺跡	石製模造品	文化財調査事務所 近つ飛鳥博物館	学術研究
48	鳥根県教育庁文化財課古代文化セン ター	安威遺跡 応神陵古墳	土師器 須惠器 埴輪	文化財調査事務所	展示
49	個人(堺市立泉北すえむら資料館)	大坂城跡	津州窯産陶磁器	文化財調査事務所	学術研究
50	能勢郷土史研究会	尾道遺跡	木製飯面 墨書土器	文化財調査事務所	映像資料作成

51	個人（京都府立大学大学院）	讚良都条里遺跡 平尾遺跡	土師器	文化財調査事務所	学術研究
52	個人（花園大学大学院）	正法寺 河内国分寺 信太寺 久宝寺 和泉寺	瓦 瓦 瓦 土器 土器	文化財調査事務所	学術研究
53	枚方市教育委員会	百濟寺跡	瓦	泉大津収蔵庫	報告書作成
54	個人（京都府立大学大学院）	尾平遺跡	土器	泉大津収蔵庫	学術研究
55	個人（和歌山県立紀伊風土記の丘資料館他）	陶邑家跡群大野池3号室	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
56	豊能町教育委員会	川尻遺跡	陶面	文化財調査事務所	刊行物
57	堺市教育委員会	堺塚塚都市遺跡（SKT506）	龍紋壺	泉北収蔵庫	報告書作成
58	個人（京都大学）	陶邑家跡群 谷山池12号室	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
59	個人（京都府立大学大学院）	讚良都条里遺跡 正法寺遺跡	土器	北部収蔵庫	学術研究
60	個人（和歌山県立紀伊風土記の丘資料館他）	陶邑家跡群大野池3号室	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
61	個人（京都府立大学大学院）	深井清水町C遺跡	土器	泉佐野収蔵庫	学術研究
62	個人	信太寺	瓦	いずみの国歴史館 （長期貸出）	学術研究
63	個人（京都大学大学院）	牛石7号墳 西山2号墳 楡尾塚原9号墳	馬具	文化財調査事務所	学術研究
64	個人（京都大学）	陶邑家跡群 谷山池12号室	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
65	個人（京都大学文化財総合研究センター他）	淡輪遺跡	縄文土器	泉大津収蔵庫	学術研究
66	個人（和歌山県立紀伊風土記の丘資料館他）	陶邑家跡群大野池3号室	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
67	個人（熊本大学）	土保山古墳	弓	文化財調査事務所	学術研究
68	個人（堺市立泉北すえむら資料館）	大板城跡	津州窯産陶磁器	文化財調査事務所	学術研究
69	個人（福岡大学大学院他）	藤屋北遺跡 長保寺遺跡	馬具	文化財調査事務所	学術研究
70	個人（奈良県立橿原考古学研究所）	百濟寺跡	瓦	泉大津収蔵庫	学術研究
71	個人（奈良県立橿原考古学研究所他）	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
72	個人（奈良県立橿原考古学研究所）	百濟寺跡 田辺廃寺	瓦	泉大津収蔵庫	学術研究
73	個人（御所市教育委員会他）	大園遺跡	埴輪	泉大津収蔵庫	学術研究
74	個人（奈良県立橿原考古学研究所）	河内国分寺跡 太平寺 衣縫廃寺 河内寺 正法寺	瓦 埴	泉大津収蔵庫	学術研究
75	大阪府立狭山池博物館	白山家旧蔵資料	大皿 かんざし くし 着物等	文化財調査事務所	展示
76	個人（和歌山県立紀伊風土記の丘資料館他）	陶邑家跡群大野池3号室	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究

77	個人（京都大学）	陶邑窯跡群MT85号室 TK312号室	須惠器	東大阪收藏庫	学術研究
78	個人（京都大学）	陶邑窯跡群MT85号室 TK312号室	須惠器	東大阪收藏庫	学術研究
79	個人（堺市立みはら歴史博物館）	供出梵鐘	写真	文化財調査事務所	学術研究
80	個人（公益財団法人大阪市博物館 協会大阪文化財研究所）	細井廃寺	瓦	近つ飛鳥博物館	学術研究
81	個人（大阪市教育委員会）	大坂城跡 土師の里遺跡	陶磁器類 土器類	文化財調査事務所	学術研究
82	個人（奈良県立橿原考古学研究所 他）	大園遺跡	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
83	個人（奈良県立橿原考古学研究所）	正法寺 細井廃寺 禪寂寺	瓦 埴 土製品 瓦 埴仏	泉大津收藏庫	学術研究
84	高槻市教育委員会	八雲遺跡	弥生土器 石器 玉類	文化財調査事務所	展示
85	茨木市市史編さん室	上寺山古墳	写真	文化財調査事務所	市史編さん
86	柳井茶臼山古墳研究会	応神陵古墳外堤 土師の里遺跡	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
87	個人（和歌山県立紀伊風土記の丘 資料館、大阪大学大学院）	陶邑窯跡群大野池3号室	須惠器	泉佐野收藏庫	学術研究
88	製埴土器研究会	小島東遺跡	製埴土器	文化財調査事務所	学術研究
89	富田林市教育委員会	新堂廃寺	騎尾	文化財調査事務所	刊行物
90	個人（公益財団法人大阪市博物館 協会大阪文化財研究所）	大坂城跡	須惠器	泉北收藏庫 泉大津收藏庫	学術研究
91	個人（羽曳野市教育委員会、奈良 県立橿原考古学研究所）	蕃上山古墳	埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
92	個人（公益財団法人郡山市文化・学 び振興公社おおりやま文学の森資料 館）	池島・福万寺遺跡	石製模造品	文化財調査事務所	学術研究
93	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産 登録推進本部	陶邑窯跡群	須惠器	文化財調査事務所	展示
94	和歌山県立紀伊風土記の丘資料館	堂山1号墳 総持寺遺跡 蕃屋北遺跡 西小山古墳	須惠器 須惠器 紡績車 須惠器 U字形土製品 埴輪	文化財調査事務所	展示
95	個人（公益財団法人大阪府文化財セ ンター）	大坂城跡	木簡等	文化財調査事務所	研究
96	四條畷市市史編さん室	砂遺跡 更良岡山遺跡 讃良郡糸里遺跡	縄文土器 石器	泉大津收藏庫	市史編さん
97	個人（羽曳野市教育委員会他）	蕃上山古墳	埴輪 須惠器 家形埴輪	泉大津收藏庫	学術研究
98	個人（羽曳野市教育委員会他）	蕃上山古墳	埴輪 須惠器 家形埴輪	泉大津收藏庫	学術研究

平成25年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図





構造規模/鉄骨3階
 敷地面積/4,504.76㎡
 延床面積/4,739.22㎡

図83 文化財調査事務所平面図

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 18

発行日 2014年10月31日

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06-6941-0351 (代表)

編集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒590-0105

堺市南区竹城台3丁目21-4

TEL 072-291-7401

印刷 (有) ウェイク

〒537-0001

大阪市東成区深江北2丁目11番36号

TEL 06-6975-5123

